

No. 55 >>> Contents

●提携トピックス

- 埼玉県における、『いろどり』のネクタイ販売
 株式会社マルシバ 取締役商品部長 野口俊二 ①
- 第10回『宝絹展』の開催を終えて・・・西陣織工業組合 専務理事 辻本泰弘 ④
- 和装の持続的発展のための商慣行のあり方について
 和装振興協議会事務局 経済産業省製造産業局生活製品課 ⑦

●蚕糸絹トピックス

- 日本絹文化フォーラム2017（1st）を開催して
 日本絹文化フォーラム実行委員会 事務局長 高林千幸 ⑪

●シルク遺産を訪ねて③④

- 高知県の藤村製絲記念館 ― 百年の歴史を後世に伝える ―
 東京産業考古学会 理事 平井東幸 ⑮

●蚕糸・絹業史のひとコマ

- 蚕種と名馬・座繰器の座は歯車 シルク博物館 元部長 小泉勝夫 ⑲

●シルク豆辞典

- 上簇と簇 東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山 岳 ⑳

●研究・技術情報

- 蚕糸絹文化の学校教育における継承
 高崎経済大学 経済学部 教授 大島登志彦 ㉔
- 桑の害虫について 一般財団法人 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
 嘱託研究員 市橋隆壽 ㉔
- 蚕飼育作業における身体的負担の軽減
 群馬県蚕糸技術センター 蚕糸研究係 清水健二 ㉔

●蚕糸・絹業団体情報

- 蚕糸・昆虫機能利用の基礎研究から実用化まで
 一般社団法人 日本蚕糸学会 庶務幹事 河本夏雄 ㉔

●イベント情報

●一般財団法人大日本蚕糸会から

- 平成29年度第2次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ㉔
- 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧（H29-第2次） ㉔
- 平成29年度貞明皇后研究助成採択一覧（11件） ㉔
- 一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌 ㉔

●蚕糸絹関係博物館一覧

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）

埼玉県における、『いろどり』のネクタイ販売

株式会社 マルシバ

取締役商品部長 野口俊二

株式会社マルシバの純国産絹製品の取り組み

株式会社マルシバは、前身を丸太柴田商店といい、江戸時代より長浜で濱ちりめんを扱っていました。その後、白生地問屋として長浜、丹後を中心に五泉などの産地、機屋との直接取引を重ねて、新しい白生地の研究開発を進めながら販売業を営んできました。織の組織的なことはもとより、生糸や繭に関する勉強も必要なことでした。その様な背景もあり、(一財)大日本蚕糸会との関りが生まれ、蚕業技術研究所の新蚕品種の情報や、蚕糸科学研究所に生糸に関する助言を頂いたりしてきました。平成 17 年頃から提携グループに関する動きが始まったのをきっかけに「プラチナボーイ」と「白繭細 1 号」の事業を始めました。それぞれ千葉県と茨城県、長野県の関係 JA とのお付き合いも始まりました。白生地問屋として農協とのお付き合いは全く始めてのことで、関係者に相談しながら手探りの繭作りとなりました。製糸業者にしても同じことで一つ一つ勉強と経験を重ねました。現在も純国産絹製品の生産販売を行っています、その 99%が呉服製品に限っています。

ご存知の通り、現在呉服業界は厳しい状況が続いています。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて「和」に対する注目度が上り、世界的にもメイド・イン・ジャパンの評価が上っていますが、業界自身の厳しさは大きく変わってはいません。白生地を中心とした純国産絹製品の生産販売は、これまで通りクオリティを重視した“もの作り”を続けることで業界に貢献したい思いに変わりはありません。並行して呉服以外のアイテムに取り組むことで、大きな数の純国産絹製品を生産販売することは出来ないか、という考えも持っていました。

埼玉シルクによる絹製品

大日本蚕糸会とのお付き合いの中で JA 全農さいたまの方と出会い、それをきっかけに埼玉県産の絹製品の制作販売が出来ないか、という話が持ち上がりました。地産地消の精神は農協にとっても基本となる考え方で、純国産絹製品の現状を知ってもらい、品質の高さを普及させることが出来ると考えました。その後、JA 全農さいたまの生活課の方々との検討会が何度となく重ねられ、

実際には足掛け3年に及ぶ事業となりました。

マルシバは平成27年度の蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の試作品事業でフォーマルネクタイとポケットチーフの制作をしました。非呉服の絹製品制作を試す絶好の機会と考えたのです。結果は試作品展などでも高い評価を頂き、満足のいく“もの作り”であったと考えています。埼玉シルクによる絹製品のアイテム選びを進める中で、純国産ネクタイの現物があったことはとても大きなことでした。そのクオリティの高さは、JA全農さいたまの生活課の方々に対する説得力に格段の違いを生みしました。

埼玉県養蚕

現在埼玉県は、日本で繭生産量4番目の県です。県内の熊谷市には、最盛期の片倉工業株式会社を支えた熊谷工場跡に、歴史的建造物である繭倉庫を活用した片倉シルク記念館があります。また、日本三大曳山祭りに数えられる「秩父夜祭り」は、別名「お蚕祭り」と呼ばれています。さいたまブランド繭としては、「いろどり」が広く知られています。生糸は多少黄味がかっていてセリシンの含有量が高いために、素肌にやさしく染色性が高い糸で、摩擦強度が高いことなどが特性です。今回のネクタイに使用した「いろどり」の繭生産地は、JAちちぶです。ここは、「秩父夜祭り」で有名であり、秩父銘仙の産地としても知られる場所です。繰糸は長野県の松澤製糸所が受け持ちまし

た。創業時から一貫してボイラーは井戸水を使い、廃材を燃料としています。工場見学をすると裏の倉庫には沢山の薪を見ることが出来ます。今回の生糸は、埼玉県の製糸協会の長を務める有限会社コバヤシを通じて入荷しました。それぞれの関係者から誠意ある対応を頂きました。これも地産地消の成す技と感じました。

ネクタイ制作と販売

アイテムはネクタイそして“ブラックとシルバーの礼装用”の制作ということがまず決まり、その制作は山梨県の株式会社甲斐絹座（試作品ネクタイと同じ）にお願いすることになりました。またパッケージを含めたトータルデザインをデザイナーの南出優子氏にお願いしました。南出氏は「東京の手仕事展」などでもデザインの優れた作品を発表されています。数量はブラックを600本、シルバーを400本として、セット販売とブラックのみの単品売りの2パターンとしました。

糸量は約75kgで、1,000本のネクタイを制作します。実際の制作でとても苦勞するのが撚糸です。これは、呉服の白生地を制作する場合でも同じなのですが、撚糸業者にとっては極小ロットでの仕事になり、時間もかかり効率の悪い仕事になります。こうした小ロットでの商品制作はどの業界でも重要なことで、今後の課題となる案件だと思います。呉服の機屋さんなども同様ですが、甲斐絹座のように小ロットで受けてもらえる先はとても貴重な存在になります。

す。ネクタイのクオリティに見合ったパッケージにもこだわり、箱の色や素材、中に入れるしおりの写真、文字の字体や色も吟味しました。

実際の販売は、埼玉県内の4つのJAで取り組みました。JAいるま野、JA埼玉中央、JAちちぶ、JA埼玉ひびきのです。平成27年の秋に話が始まり、実際に制作に掛かったのは28年の7月でした。サンプル品が10月に上がり恒例のJAの見本市にぎりぎり間に合いました。12月に納品を開始し、実際に販売し始めたのが翌29年の1月でした。販売はスタート時より順調に進み3月にはほぼ完売していただきました。

何度も検討会を重ね、織の地風を選び、パッケージも試作を重ねました。その中でJA全農さいたまの生活課の方々の誠実な取り組みと、地産地消という考えを基本においた地元に対する熱意を一番感じました。また、販売をしていただいた各JAの皆様も同様であると思います。マルシバという呉服の白生地問屋が異業種であるネクタイ販売で成功が出来たのも純国産生糸の生産を通じて築き上げたネットワークのお陰であると思います。今後も呉服は勿論のこと非呉服も含めた純国産絹製品の制作販売を継続していくことを株式会社マルシバの一つの核としたいと思います。



写真1 礼装用ネクタイ



写真2 製品のしおり

第 10 回『宝絹展』の開催を終えて

西陣織工業組合

専務理事 辻本泰弘

平成 29 年 9 月 2 日（土）から 6 日（水）まで、京都市上京区の西陣織会館にて第 10 回目となる「純国産宝絹展」が開催されました。

会場各コーナー等での開催の様子を報告します。

西陣 550 年の節目に

本年 2017 年は、わが国戦国時代の^{こうし}嚆矢ともいえる応仁の乱（1467～77 年）が勃発して 550 年目を迎えます。室町時代中期、諸国の大小名が京都を舞台に東西両軍に分かれ戦った応仁の乱、その西軍の本陣付近ということから「西陣」の呼称が誕生し、そこで生産される織物を西陣織と呼ぶようになりました。

西陣織産地では呼称 550 年に当たり、西陣織会館の大リニューアル、地域あげでの記念催事、金欄で飾った西陣バスの運行、そして、分業生産システムの再構築など産地体制のあり方についての検討など多彩な事業を進めています。

第 10 回宝絹展は、そのような節目の年に始めて織物産地施設で開催されることになりました。

キーワードは「見る・参加する・楽しむ」

西陣織会館には、手織の実演やきものショーがあるため、1 年を通じて外国人観光客が多数お越しになります。この季節の観光客は、中国人が約 60%、東南アジア約 20%、欧米と国内が各 10% となっていますが、宝絹展の会期中は新聞報道や西陣織会館内での同時開催イベントなどもあって国内客が増えています。

会場にお越しただいて最初に目を引くのは、吹き抜け 2 階の透明フェンスに掲示された「宝」と「絹」の大きな朱文字。

What is Takaraginu? 宝絹って？

ここからが宝絹展の始まりです。



にぎわう実演、体験、ふれあい

座繰り、手描友禅の彩色実演、一粒繰りの体験、2階の会場では手機の実演など多彩に展開していただきました。職人さんの熟練した技、手さばき、工夫を凝らした道具にはどこも人ばかりで歓声が飛び交い、体験に挑まれた来場者にも笑顔があふれていました。

2時間で160cmの織り上げ、という本格的なモノづくり体験のシルクマフラーのミニ手機には、遠くは東京、神奈川からのご参加や地元金融機関の幹部など5日間で30人の皆さんがチャレンジされ、“世界に一つ”のモノづくりを楽しんでいただきました。



また、繭クラフトのコーナーでは、カラフルに着色された繭によるアクセサリーづくりなどが行われていました。

Oh! Is this a KAIKO?

生きた蚕コーナーには、京都工織大提供の3齢、5齢の普通蚕種、東京農工大提供の阪神タイガース模様(?)の特殊蚕種「虎蚕」のほか、キャベツや桑の実、林檎などを食べる広食性の蚕「沢J」が展示紹介され、来場者の関心を集めていました。



初の「純国産きものショー」

西陣織会館の前身の西陣織物館（現京都市考古資料館）では、京都観光の新素材として昭和31年10月からきものショーを毎日開催しており、以来、現会館で引き継いで本年で丸60年を数えます。現在、1日6回、1回10分の上演で全国的にも例を見ないきものショーの無料観覧施設となっています。

昨年、大規模リニューアルを行い1階から3階に移した新装のきものショーステージで「純国産きものショー」を普段と同様に会期中毎日6回上演し、5日間で2,392人の国内外の皆さまに純国産の華やかで雅なきものと帯のショーをご観覧いただきました。

とりわけ、優雅な折り鶴が描かれた京友禅の振袖や豪華絢爛の金銀ペアの西陣袋帯にはお客様から拍手と感嘆のため息がもれ



聞こえてまいりました。

また提携グループの会員さんご提供のシルクの洋傘とショールもきものショーで紹介させていただき話題を集めていました。

女子美術大学の瑞々しい感性

斬新なデザインでひときわ目を引いた女子美術大学デザイン・工芸学科の学生作品は、各グループともにさらにブラッシュアップし人気を博しました。

なかでも「大正ロマン昭和レトロモダン」のコンセプトで提案された刺繍バッグは完成度も高く来場者の関心の的でありました。

また、蚕糸・絹業提携グループ各社の試作品は京都ならではの専門家の目を集め、さらに今回始めて設置された販売会場では、「こだわりたい“絹こち”」「1%の日本の絹」の熱いトークが会場を行き交っていました。

講演会は議場会議室で

西陣織会館の会議室は階段型馬蹄形の議場です。この本格的な会議会場で2題のご講演が会期中の日曜日に行われました。



午前には京都工芸繊維大学の森肇副学長による「セリシンカイコ」について、午後には蚕業技術研究所の代田丈志研究員による

「紅葉山御養蚕と蚕品種」について、それぞれ1時間余のご講演をいただきました。

初の絹業産地で開催の講演会だけに、会場には多くの専門家の皆さまにお越しいただき熱心に聴講していただきました。

むすびに

宝絹展の5日間、会場は大いににぎわい純国産絹の魅力を多くの人に伝えることが出来たものと思っています。

きものショーの観覧客数、団体バス台数、同期間の開催イベントの来場者数などから判断すると、今回の宝絹展には3,500人程度の来場者にご覧いただいたと推定します。

宝絹展10年の歴史のなかで、初の絹業産地の振興施設での開催、初の純国産きものショーの実施、多数のインバウンド来場者を迎えての5日間、純国産絹商品の同一会場での販売など初もの尽くしの西陣での宝絹展でした。

むすびに、当会館のFacebookへの来館者の投稿をご紹介します。

"Jewelry silk (Takaraginu) exhibition"
introducing silk products using domestic cocoons and raw silk began on the Nishijinori-Kaikan in Kyoto City.

There were kimono shows and others, and we sent out the charm of domestically produced domestic products with few opportunities to come together.

日本の純国産絹の魅力と高度な技術の絹業製品の素晴らしさが、内外に広く発信できていればこの上ない喜びです。

和装の持続的発展のための商慣行のあり方について

和装振興協議会事務局

経済産業省製造産業局生活製品課

経済産業省では平成 27 年 11 月より、和装振興に関する議論及び情報交換の場として「和装振興協議会」を立ち上げ、年に 2 回、呉服の日(5 月 29 日)ときものの日(11 月 15 日)の週に、(一財)大日本蚕糸会の小林会頭をはじめ製造、流通、小売、着装、消費者など各段階の団体トップや有識者に参加いただき、協議会を開催してきた。

平成 28 年 11 月の第 3 回協議会では、主に商慣行をテーマとした議論が行われ、和

装業界に残る非合理的な商慣行や不透明な販売手法等の改善を図るべく、協議会の下に商慣行分科会を立ち上げて業界の商慣行のあり方について議論することとなった。平成 29 年 2 月から 3 回にわたり分科会を開催し、5 月 29 日に開催した第 4 回協議会にて「和装の持続的発展のための商慣行のあり方について」が報告、承認され、「和装業界の商慣行に関する指針～和装の持続的発展のために～」を定めたものである。



本指針は、前文及び事業者間取引に関する8項目、消費者との取引に関する9項目から構成されており、趣旨を以下に説明したい。(経産省HPの指針とともにご覧いただきたい。)

まず前文では、指針策定の背景や、和装業界の目指すべき方向性について述べている。和装業界の現状として、作り手の高齢化や産地の疲弊等により、生産・流通体制の中長期的な持続可能性が懸念されている。和装業界では、長期手形や「歩引き」などの前近代的な取引慣行や、「高売り」、「値引き販売」、「圧迫販売」などの不透明な販売手法等が指摘されており、これらは他の業界では考えられず常軌を逸しているとの指摘もある。このような商慣行が消費者の不信感や「きもの離れ」をもたらしている一因とも指摘されている。一方で、若い女性を中心とする、きものを買いたい、着てみたいというニーズや、インバウンドも含めた海外需要など、まだまだ潜在需要が存在する可能性がある。

生糸を製造する蚕糸業から呉服店などの小売業までのいわゆるサプライチェーン(川上から川下に至る生産・流通過程)を構成する各事業者がそれぞれの持つ機能を発揮するためには、リスクを一方に押し付けることなく適正な取引をしていくことで、事業者間の相互の信頼関係を構築し、成果の果実を相互に分ちあっていくことが不可欠である。そのためには、サプライチェーン全体にわたる適正な取引の確保と付加価値の向上を図り、目先の利益にとら

われるのではなく、消費者本位の商品・サービスを提供し、消費者との継続的な信頼関係を構築することが不可欠である。

適正な取引を確保するためには、下請取引の適正化や消費者保護に関する法令等を適切に遵守することは当然のこととして、これらの法令の対象外取引であっても、これらの法令の趣旨を踏まえ、和装業界が自主的に対応することが望ましい。元来、事業者間取引は自由競争の下で行われるべきであるが、それは、取引の相手方が対等な関係にあることが前提となっている。品目や取引内容によって条件は変わり得るので一律に議論はできないが、仮にどちらかが強い立場にある場合、その立場を利用して押しつけとなるような取引条件を示すべきではない。

本指針では、商慣行に関する諸原則を示しており、広くサプライチェーンを構成するそれぞれの事業者が本指針の趣旨に積極的に賛同し、各事業者の置かれた状況に応じて、研修の実施などを通じて、本指針を適切に具現化していくことが求められる。また、指針に示した字句を形式的にとらえるのではなく、各原則の趣旨、理念について考えることが重要である。例えば、「取引内容の書面化」について言えば、単に受発注を書面化するだけでなく、それを通じて取引内容が不公平なものになっていないか、考えることが重要となる。加えて、個別の事情により、本指針の各原則を実施しない(できない)場合もあり得られるが、その場合は、実施しない(できない)

理由を取引の相手方に適切に説明することにより、双方で状況を正しく認識し、理解した上での取引とすることが望まれる。

商慣行の改善を進め、消費者との信頼関係を構築し、和装が消費者の生活や文化に一層の豊かさをもたらし、その結果として和装市場が活性化することで、各事業者及び業界全体も更に発展するという好循環の実現を目指すべきである。

次に本指針の具体的内容であるが、先にご紹介したように事業者間取引と消費者との取引に分類し、原則を示している。事業者間取引では、代金の支払いを原則現金払いとすることや、長期手形、「歩引き」、「延べ払い」など、時代に合わない前近代的な商習慣の見直し、受注者が適正な利益を得るようするための取引対価の決定方法、取引契約等の書面化など、改善が求められる項目について挙げている。

流通段階における販売方式の一つである委託販売については、販売事業者である卸・小売はコストやリスクを負担しないことからこれに依存する傾向があり、結果として、販売事業者の商品に関する知識や目利き力の低下、販売力の弱体化につながるとともに、産地への資金環流が滞り、産地の疲弊を招く一因になっているとの指摘もある。一方、産地の製造事業者に対するメリットもあり、新商品の販路開拓につながる場合や、展示会等で製造事業者が直接消費者に接することで、消費者がより商品に親しみを感じたり、あるいは消費者のニーズ

に触れたりする機会となっている場合もある。いずれにしても、製造事業者は、消費者視点でのものづくりを行い、消費者ニーズに対応した魅力ある商品、独自性や独創性の高い商品の開発を進めることが重要である。

消費者との取引については、各事業者が目先の利益にとらわれずに消費者本位の商品・サービスを提供し、いかに消費者との継続的な信頼関係を築けるか、また、単にモノとして販売するのではなく、ストーリーの説明、着用シーン・スタイルの提案、メンテナンスのフォロー等により、付加価値の高い商品・サービスを提供できるかが重要となる。

小売事業者と消費者との間では和装に関する情報に格差がある場合がほとんどであり、きものの着用経験が短い消費者に関しては特にその傾向が強い。それにつけ込み無理に高額商品等を販売することは、結局消費者の不信感や「きもの離れ」をもたらすこととなる。消費者がこういった知識や経験等を有しているかを踏まえて分かりやすく説明していくことで、消費者の確実な理解を得るべきである。

そもそもきものは反物として販売されることが一般的で、価格や製品情報に関する表示が難しい事情はあるが、仕立代などを含めた最終的な金額が分かりにくく、悪意をもって価格を上乗せされたと受け取られる場合もある。さらに、洋服に比べ、大体いくら程度が「通常価格」であるのかも判別しにくい。根拠のない高額な「通常価格」

を提示した後、「値引き」して購入を誘引する行為などは、景品表示法で禁止されている不当表示にあたるおそれもある。商品タグ、ラベル等から得られる、「〇〇織」「〇〇染」といった産地や、どこでの仕立か、手仕事か、等も重要な情報であり、消費者が商品の品質・価値を適切に理解できるよう、分かりやすく表示し、説明すべきである。

販売手法についても、場合によっては「きもの離れ」につながるおそれがある。商品の販売が行われることを知らされないまま参加した着付け教室や展示会、産地ツアー等における強引・執拗な勧誘や、長時間拘束しての勧誘など、強引な手法は、業界全体にとっての持続的発展の妨げになることを認識すべきである。

以上が、本指針の概要であるが、全文は経済産業省ホームページに掲載しており、そちらを参照されたい。事務局としてはすでに業界各団体と協力して周知・普及を進めてきており、また、産地組合として賛同宣言を行い、遵守を徹底していくといった動きも出てきている。「今までこのやり方でやってきたから」という意識ではなく、出来るところから一歩ずつ変えていくことが、今後とも産地がきものを作り続け、消費者が安心してきものを着ることを楽しめる、といったことに繋がるはずである。今後、協議会の場でも定期的に取り組状況のフォローアップを行うことで本指針が着実に実行され、和装業界全体が活性化していくことを強く期待する。

和装の持続的発展のための商慣行のあり方について（経済産業省ホームページ）

<http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/20170531001.htm>

日本絹文化フォーラム 2017（1st）を開催して

日本絹文化フォーラム実行委員会

事務局長 高林千幸

はじめに

今年の4月28日に、第1回目となる日本絹文化フォーラム 2017 を岡谷市において開催しました。これは、蚕糸業・絹業に携わる人、絹に興味を抱いている人、絹をこよなく愛している人が心と心の通じ合いをはかり、絹の歴史を見つめ、絹の未来を思考・創造することを目的とするものです。

初回のテーマは「伝統ある日本の絹文化を未来へ」として、岡谷蚕糸博物館に隣接する岡谷商工会議所の大会議場で開催しました。北は北海道、南は九州から324名という大変多くの皆様にお集まり頂き、主催者の開会挨拶から始まり、提言、基調講演、特別講演2題、活動事例講演2題、そして最後にフォーラム宣言を行いました。

以下、その概要を報告します。

1) 主催者挨拶

今回のフォーラムの実行委員長原田尹文氏（NPO シルク文化協会理事長）によるフォーラム開催の趣旨説明に続き、日本の伝統ある絹文化を“シルクのまち岡谷”から発信していきたい、との挨拶がありました。

次に、岡谷市長今井竜五氏より、歓迎のことばと岡谷の製糸業の歩み、そして昭和23年から63回に亘って行ってきた製糸夏期大学に代わる未来に向けた集いとして、このフォーラムを皆様の力で育てて頂きたい、との挨拶がありました。

2) 提言：岡谷商工会議所会頭・前岡谷市長 林新一郎氏「絹文化を如何に継承発展させるか」

林氏は絹織物に造詣が深く、自ら資料館を設立し、織物・鎧・兜などの収集を行い現在資料は3千点を越えています。

提言の中で、『わが国には北海道から沖縄にいたるまで、それぞれの地域で独特な絹文化がある。しかしながら後継者不足な



写真1 会場風景

どで、技術継承すら難しい状況になっている。長い間、培われてきた技術をより多くの人に知ってもらい、それぞれの織物の良さを肌で感じて頂くことが必要。そして、新しいものの開発ばかりでなく、変えてはならないものもある』と伝統技術を守り継承することの大切さを述べられました。

3) 基調講演：一般財団法人大日本蚕糸会会頭 小林芳雄氏「わが国の蚕糸業の現状と大日本蚕糸会の役割」

近年の蚕糸業の状況について、『平成 27 年の養蚕農家数および収繭量は 8 年前に比べ 3 割となっている。平成 25 年の絹の国内需要量（生糸換算）は約 19 万俵でその内純国産生糸の供給量は約 400 俵、率にすると 0.2% であること』、などの説明がありました。昨年度末で「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」は終了し、今年度はその見直しを行い、次年度から新対策に移行することなどが話されました。

そして、蚕糸業の新たな展開に向け、希少価値・高品質・多様な品目による純国産絹製品の需要拡大を目指し、インバウンド需要に応える製品開発と輸出へのチャレン

ジ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて夏用製品の開発と絹啓発の各種行事の展開等を提案されました。更に今後の新たな展開として、カイコの持つ「生物機能」を活かした新機能シルクを開発など、「蚕業革命」への期待も述べられました。

4) 特別講演 (1)：前（一財）大日本蚕糸会蚕業技術研究所長 井上元氏「蚕品種の特性を生かした絹織物」

（一財）大日本蚕糸会で進めてきた蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に活用されている蚕品種を蚕種製造量からみると、普通蚕品種が 80%、特徴ある蚕品種が 20% を占めているとのことです。特徴ある蚕品種は色のついた繭、雄だけの繭、玉繭、糸が細い繭、小石丸などの昔の繭等々です。

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業で進められたものではありませんが、特徴ある蚕品種繭の「セヴェンヌ白」による事例が報告されました。それは、18 世紀フランス・ロココ時代の宮廷ドレスの張り感と柔らかさの相矛盾した特質を復元しようとするもので、蚕業技術研究所保存のフランス在来品種「セヴェンヌ白」を育成し、繰製後製織したところ所期の目的が達成されたことが述べられました。また、昭和 20 年代の蚕品種に着目し、当時育成された「太平×長安」や「秋光×竜白」による起毛コートや玉小石によるシャンタンなどを製作し、高い評価が得られたこと等の報告がありました。

蚕の品種特性を生かして製品化に結び付



写真 2 小林芳雄氏の基調講演

けた報告に、聴講者からは「蚕の品種保存がいかに大切であるかが良く理解できた」との感想が述べられました。



写真3 井上 元氏による特別講演

5) 特別講演(2): 和文化研究家・(株)秋櫻舎代表 中谷比佐子氏「自然法則に叶った着物文化」

中谷氏は、一年中着物を着て生活をしています。そうした中から、『着物ほど私たちに自然の法則を教えてくれる教師はいない。その自然の法則がわかると着物を着る楽しさが、生きる楽しさとなって私たちの生活に活力と潤いを与えてくれる。蚕の命の尊さを形で表したのが、1ミリも残布を



写真4 中谷比佐子氏による特別講演

残さない着物の仕立。ちなみに洋服の場合は約25%の布を切り落として無駄にしている。着物は8枚の布をただつなぎ合わせた単純なもの。日本人が生きとし生けるものの命を尊んだ姿が着物』と述べられました。

中谷氏が常に言っておられる「絹のチ・カ・ラ」を思う存分感じる講演でした。

6) 活動事例講演(1): 染と織やまだ(諏訪市)社長 山田恒氏「蚕糸・絹業提携“諏訪の絹”の誕生」

山田氏は、60余年呉服業界に携わり、30年前から自店のオリジナル着物と帯を手掛けてきました。そして、平成21年より蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業として、茅野市の養蚕農家の繭を下諏訪町の松澤製糸で糸にし、滋賀県の南久ちりめんで白生地として、それに八ヶ岳や諏訪湖から見える富士山などを描き着物にしました。その他、京都の刺繍作家に依頼し付下げ小紋をつくるなど、「諏訪の絹」ブランドで販売しています。

厳しい状況の和服業界の中、価格を極力抑え、お客様に喜んでいただく商品作りを目指し奮闘されています。



写真5 山田 恒氏による活動事例講演

7) 活動事例講演(2): 岡谷蚕糸博物館学芸員 林久美子氏「諏訪の糸へん文化」

林氏は『繭から生糸づくりを行う製糸の絵姿は、「糸」の字の語源であり、糸は、「織る」「編む」「組む」によって、線である糸が面である布になり身にまとうものになる。この諏訪地方は、明治以降、日本の近代化を支えた製糸業の一大産地として発展するが、その前段階には、江戸時代に、綿打・諏訪小倉織という原綿を仕入れて製品として出す産業があった。横浜が開港し、外国貿易が盛んになると、綿打・諏訪小倉織は、これらの体質・構造を継続して製糸業へと移行する。そして、時代の変遷の中で精密加工業、マイクロデバイス、電子産業へと変わっていく。しかし、その根底に流れるのは「原料を移入して製品に組み立てる」という産業形態であり、山に囲まれた内陸の寒冷地で人々が生き抜くための知恵の結晶であった』と述べられました。

糸へん文化が切り拓いてきた諏訪の産業、これからの新たな産業の姿を示唆する講演でした。



写真6 林久美子氏による活動事例講演

8) フォーラム宣言

事務局より、『伝統ある絹文化を大切に、日本の新しい絹の道を切り拓き、日本の絹文化を未来へ繋げて行く』旨の宣言を行いました。

9) 閉会挨拶

日本絹文化フォーラム副実行委員長宮坂照彦氏より、各講師・参会者への謝礼と来年の再会を期すことばが述べられ、閉会となりました。

おわりに

岡谷市では、例年4月29日の蚕霊供養祭を「シルクの日」として、シルクフェア in おかやを開催し、今年で21回目となりました。岡谷市内の各会場でシルクに関するイベントを行っています。今年から、その前日の4月28日に日本絹文化フォーラムを開催することとしました。

今回の第1回目の日本絹文化フォーラムには、大変多くの皆様にお集まり頂き、絹に関する関心の深さを改めて感じました。「日本人の心の中に絹は生きている」というのが実感でした。来年以降、参会者の皆様と、より一層心の交流が図られるフォーラムにしていきたいと思っています。

次回は、平成30年4月28日(土)に開催します。「シルクのまち岡谷」でお会いしましょう。

高知県の藤村製絲記念館

— 百年の歴史を後世に伝える —

東京産業考古学会

理事 平井東幸

藤村製絲記念館は、高知駅から、JR 線と土佐くろしお鉄道で約 1 時間 40 分、県東部の奈半利町にある。明治から戦前昭和にかけて漁業、製材、捕鯨、造船、製糸で栄えた人口約 3,500 人の町である。今年 6 月、奈半利駅前には、写真 1 の繭と再繰用大枠のモニュメントが設置されたが、これはかつてこの地域が養蚕・製糸で栄えたことを顕彰して、奈半利町が設置したもの。

平成 27 年にオープンした同館は、100 年の歴史を有する藤村製絲(株)の企業資料館であり、シルク関係では全国で最も新しく、四国では野村シルク博物館（愛媛県西予市）、蚕糸資料館（高知県越知町）に次ぐ

3 館目である。

記念館の概要

現在、同社には、西藏、記念館（展示室）、石堀が保存され、無料で一般公開されている。これらの施設のうち記念館を除き、平成 12 年に国の登録有形文化財に登録されたが、当時の概要は次頁の表の通りであった。すでに、平成 18 年から地域の観光資源の目玉として一般公開を開始している。平成 19 年には経済産業省の近代化産業遺産にも認定される一方で、平成 17 年の製糸事業からの撤収もあって、一部の建造物は残念ながら撤去されている。



写真 1：駅前の繭と再繰用大枠のモニュメント
写真提供：藤村製絲(株)

藤村製絲の産業遺産（建造物）

名 称	説 明
西藏○●	1899 年酒蔵として建築、大正 6 年頃に現在地に移築
東蔵○●	昭和 11 年の建築、平屋建て、撤去
工場○	1917（大正 6）年建築、撤去
倉庫○●	昭和初期に建築、木造 2 階建て、撤去
寄宿舍	昭和 11 年の建築、撤去
石堀○●	明治 32 年頃の建築、現存

（資料）パンフレット「登録有形文化財 藤村製絲株式会社」（なはり浦の会、2012 年 2 月）等から作成

（注）○は経産省の「近代化産業遺産」に平成 19 年に認定

●は文化庁の「登録有形文化財」に平成 12 年に登録

貴重な西藏

もっとも貴重なのは西藏である。明治 32（1899）年に酒蔵として建築されたものが、大正期に現地に移築されたと言われており、繭蔵として長年にわたり使用された蔵で現役である。写真 2 のように土佐漆喰の白壁、水切り瓦、窓の配置もユニークで全体として端正で美しい。奈半利町内には明治大正期の多数の住宅や店舗、蔵が現存しているが、そのなかでも最も貴重な文化財である。「長さは約 10 m、幅 13 m の 2 階建てで、屋根は切妻造り、平入、棧瓦

葺です。西面（写真 2）は下見板張りに土佐漆喰の壁で、水切り瓦が 6 段見られます」（上記表（資料）パンフレット「登録有形文化財藤村製絲株式会社」）。なお、水切り瓦とは雨で真っ白な漆喰が汚れないように瓦の底を施したもので同地特有である。

石堀も、この地域独特の造りが珍しい（写真 3）。紹介パンフでは「半割りと丸石を練積みした石堀が長さ約 35 m 続いています。高さは約 2.2 m で頂部には棧瓦が葺かれています」と解説がある。



写真 2 藤村製絲の西藏
（写真：著者撮影、以下同じ）



写真 3 藤村製絲の石堀

記念館の概要

平成 27 年に新築された記念館は平屋で、広さは約 470 m²、床板は旧工場のものを再利用していて記念館に相応しい。内部の壁面には創業者一族を初め工場従業員の写真が約 1,700 枚展示されて、なかには、かつてのブラジル子会社の写真もあり、往時の隆盛を伝えている。

館内には工場閉鎖時の多種多様な機械器具文物が保存展示されている。主要なものを挙げると次の通り。

- ① 日産の自動繰糸機（1994 年製）を初めとして、増沢の揚返機等
- ② 本間鉄工所製の生糸水分検査機（昭和 48 年製）、岡本生糸検査機械工作所製の検尺機などの計測機器、選繭等の木製器具、毛羽取り器等
- ③ セリプレン室はそのまま移設して保存されている。
- ④ このほか、タイムレコーダー、寄宿舍の下駄箱、表彰状、黒板、標語、養蚕農家への教育用のパネル等・・・数百点
- ⑤ 農家が使用していた、木製の手動の座繰器、総捲器



写真4 記念館内の内部：壁面に多数の写真が…

記念館開設の経緯

記念館設置の経緯について安光恭一社長は「大正 6 年以来続いた製糸工場の閉鎖にあたり、石碑を立てる案もあったが、それよりも当社の製糸事業を物語る現物史料を後世に伝えたいとの目的で、記念館を建てた」と控えめに語っている。

約 9 千 m²の敷地に現存している当時の建物は西蔵と石塀のみであるが、このほかに、大正 6 年の創業時に建築された工場、寄宿舍、昭和初期建築の東蔵や倉庫があった。これらの建築物は平成 26 年に撤去されており、現在そのあとには 840kw の太陽光発電パネルが設置されて売電を行って



写真5 日産の自動繰糸機・・・手前が索緒部



写真6 水分検査機（中央の黄色）

いる。

工場は 10 棟あり木造平屋でのこぎり屋根が特徴的であった。寄宿舍は木造 2 階建、昭和 11 年に建築された東蔵は、長さ約 20m、幅 8m の平屋、倉庫は、木造二階建で東西約 44m、南北約 9.5m と大型であった。いずれも繭蔵として使用されていた。

藤村製絲(株)の沿革

同社の創業は大正 6（1917）年、創業者の藤村米太郎氏は一代で財をなした起業家、実業家。その業種は、酒造、樟脳製造を初め、明治 33 年には製材、鰹漁業、明治 43 年には捕鯨、大正 6 年には藤村製絲(株)を、昭和 2 年には藤村商船を興した。

大正期は製糸業の黄金期、当初は技術者を群馬等から招き、約 80 人で操業開始。因みに、高知県統計書によると大正 6 年には県内に器械製糸が 39 戸、座繰が 1,783 戸あった。座繰が主流であった当時に製糸業を株式会社組織で創業した例は極めて少なかった。

戦後の昭和 25 年には新型繰糸機をいち早く導入（資本金 1 千万円）、従業員も 220 名に。32 年には県下初の自動繰糸機を採用した。「本町最大の企業は、藤村製絲(株)である。戦前の輸出の花形から国内需要にその活路を見出し・・・」（『奈半利町史』昭和 61 年）、そして 58 年には全国最高品質糸として評価され、皇室の式典などにも使用された。五代の坂本雄次郎社長は日本製糸協会会長も務めた。しかし、その後の需要の減退、輸入糸増大、養蚕農家の減少

等により平成 17（2005）年に国内での製糸事業を停止した。まさに、同社の歴史は奈半利町の歴史の一部を形成していたと言えるだろう。

おわりに

町内の建造物の文化財としては、明治・大正・戦前昭和期の住宅、店舗、蔵等 10 数件あり、文化財としてはもとより観光資源として大切に保存活用されている。古い建築物の保存には困難を伴うだけに、関係者、自治体、NPO の努力と町民の理解に敬意を表したい。今年 5 月には奈半利町を含む高知県中芸地域 5 町村にまたがる地域が「魚梁瀬森林軌道から日本一のゆずロードへ」として「日本遺産」に認定された。これを契機に一層の地域振興と文化財保存活用を期待します。

今回の取材では、藤村製絲(株)の安光恭一社長に大変お世話になりました。貴重なお話を頂き、館内を案内下さり、深く感謝致します。また、奈半利町役場および高知県立図書館にも資料調査でお世話になりました。

藤村製絲記念館

○開館時間：平日 9：00 ～ 16：00

○見学無料

○所在地：高知県安芸郡奈半利町乙 2630

電話：0887－38－4711

○アクセス：JR 高知駅から JR と土佐くろしお鉄道で約 1 時間 40 分、終点の奈半利駅下車、徒歩約 10 分

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

その1 蚕種と名馬

この様なタイトルをつけて話を切り出すと読者は、中国の「^{そうじんき}搜神記」の中に出てくる話なのかな？と思う人もいるかもしれない。あるいは各地に伝わる神話を想像する人もいるかもしれない。

本号から肩の凝らない蚕糸・絹業史の話題を拾い出して紹介していこうと思っている。何も古代から現代までの歴史を延々と記述するつもりは全くない。ほんの^{ひと}一コマをとらえ短く話をすることになっている。それも、ほとんどの読者が正確に覚えていないであろうと思う話題をできるだけ取り上げてみたい。

そこで最初に、幕末に横浜を開港した当初、徳川幕府がナポレオン3世に蚕種を贈呈し、この返礼として名馬を貰った話を紹介することにした。

多くの読者の中には「この話はよく知っている。貴重な紙面がもったいない。もっと違う話を取り上げろ」という人もおられるかもしれないが、このまま本題を進めさせていただく。

ナポレオン3世へ蚕種を送った年とナポレオン3世が名馬を日本へ返礼として贈った年を調べてみると、驚くことなかれ、出典によって全く異なっており、どの年が正しいのか全く分からない。

開港当初、徳川幕府は国内の蚕糸業を保護するため蚕種の輸出を禁じていた。国内ではこのような措置が取られている時期に、ヨーロッパでは微粒子病が大発生して困っていた。この大被害に困り果てていたフランスは、我が国に蚕種の輸出を願い出てきた。しかし、蚕種輸出を禁じている幕府は、自らこの^{おきて}掟を破ることはできないので、ナポレオン3世に贈呈することにした。

蚕種を贈るとナポレオン3世は大変喜び、この返礼として日本が欲しがっていたヨーロッパ産（アラビア産）の名馬を送ってきた。ところが、贈呈年や返礼年が第1表、第2表に示したように記載文献によって異なっている。それも一か月、二か月の違いではない。

第1表 蚕種寄贈年次・枚数と記載文献

年 次		記載文献名等（寄贈枚数）
1861	文久元	藤本実也「開港と生糸貿易」中巻（1万5千枚）
1865	元治2	「続通信全覧」『類輯之部 物産門 蚕卵寄贈及購求之件』（1千5百枚）
	慶応元	「続通信全覧」『類輯之部 物産門 蚕卵寄贈及購求之件』（1万5千枚） ロスニー訳「養蚕新説」（1万5千枚）
1866	慶応2	「パスツール蚕病論」（1万5千枚） 「日本蚕糸業史第三巻蚕種史」（1万5千枚）

第2表 名馬返礼年次と記載文献名等

年次		記載文献名等
1861	文久元	藤本実也「開港と生糸貿易 中巻」 大塚良太郎「蚕史」 「日本生糸要覧」昭和2年
1863	文久3	真木虎雄調査
1865	慶応元	「横浜開港五十年史」
1867	慶応3	「万国新聞」第三集慶応3年3月発行

フランスへの蚕種の寄贈は第1表に示したように、文久元年説、元治2年説、慶応元年説、慶応2年説がある。フランスからの名馬返礼は第2表に示したように、文久元年説、文久3年説、慶応元年説、慶応3年説がある。

いずれの文献の執筆者も慎重に精査して記述したであろうから、簡単に正否を決めることはできない。

ところで、諸説がある中で第1表文献欄に「続通信全覧」がある。これは1861～1868（文久元～慶應4）年にわたる出来事を、明治政府が1874（明治7）年から10年かけてまとめたものである。1780巻を大きく越える貴重な資料である。この中の『類輯之部 物産門 蚕卵寄贈及購求之件』にフランスへの蚕種寄贈が詳細に記述されている。この記述内容については、本誌No.45（2015年1月号）に、アンティークストッキング収集研究家^{ときた}錫田章氏が「蚕糸絹トッピックス」の中で詳細に述べているので記憶に新しい読者が多いと思う。

ところで、徳川幕府は開国直後の1859（安政6）年から翌1860（万延元）年の外交を「通信全覧」にまとめた。これに続いてまとめられたものがここに紹介した「続通信全覧」である。

これまで、フランスへは蚕種1万5,000枚を寄贈したと多くの文献に記述されてきたが、前述の錫田氏の報告にも見られるように、1865年に2回寄贈が行われ、1回目は1,500枚、2回目は1万5,000枚、合計1万6,500枚である。

名馬の寄贈頭数については、慶応3年3月の万国新聞には「アラビヤ馬25頭をマルセイユを發せり」とある。名馬は慶応3年に返礼としてマルセイユ港から送り出されているが、他の報告とは異なっている。1頭は日本駐在の公使の馬が寄贈されたため、合計頭数は26頭である。

文献によって寄贈年・寄贈頭数・寄贈蚕種枚数が異なっているが、何れの資料をみても簡単に正否を判定することはできない。

本件については、いろいろな説がある中で、「続通信全覧」の記述が有力視されているようである。

蚕糸業史を調べていくと、このように判定しにくい歯切れの悪い結末になってしまう話題が意外と多い。

その2 座繰器の座は歯車

座繰器開発の歴史をみると、上州（群馬県）において、寛政年間（1789～1801年）ごろから開発がはじめられ、享和（1801～1804年）から文化年間（1804～1818年）には3枚の歯車を使った軽業座繰^{かるわざぐり}を完成、更にその後改良を重ね上州座繰の礎を築き上げたとされている。

座繰器は現在でも各地の博物館、資料館などに展示されているので、現代の人々でも知らない人はないといってもよいほど身近に見ることのできる繰糸器である。都内では本誌を発行している（一財）大日本蚕糸会がある蚕糸会館1階のジャパンシルクセンターにも展示されている。

本誌の読者には、この道の専門家が多いので、座繰器のことは釈迦に説法ということになるかもしれないが、この歴史・由来を知らない人も多いので本号に取り上げた。

座繰器は江戸時代から国内で使われてきた繭から糸を繰る道具で、器械製糸が発達するまでは、輸出用・内需用生糸がこの器具によって繰糸されてきたことは周知のとおりである。

ところで、どうして座繰器と呼ぶのかという理由については、ほとんどの人が「座って繭から生糸を繰るから…」と答える。更にあらためて座繰器の「座」の意味を問えば、ほとんど答えが返ってこない。

日本蚕糸学会が1979年に発行した蚕糸学用語辞典には、座繰器は載っていないが「座繰り製糸」という説明があり、「手廻しの座繰り器を用いる製糸法。今日では足踏式のもの、動力を用いるものが多い」とある。2012年に大日本蚕糸会が発行した蚕糸絹用語集の「座繰生糸」についての用語説明には「座繰り器で繰製した生糸」とあるのみで、座の説明は見られない。

広辞苑をひもといてみると「ざぐり（座繰・坐繰）」の用語説明がある。これには「糸枠に糸を巻く器具の一種。手で把手^{とって}を回すと歯車仕掛で糸枠が回って糸を巻きつける」とある。しかし座の説明はされていない。

筆者がシルク博物館に勤務していたころには、来館者に「座繰器は座って糸を繰る道具であるが、座繰器の「座」は、江戸時代から明治時代には、歯車のことであった。現代の人たちに分かりやすく云うならば、歯車繰糸器ということになる…」と説明してきた。歯車のことを座ということなどを知っている来館者は殆どいないので多くの人がビックリしていた。

中世から近現代の製糸史を学ばれた読者の多くは「座繰器の座は歯車」を意味することをよく知っている。しかし一般の人たちは知らないので、歯車であることを証明する文献の1事例を次に紹介しよう。

1903（明治36）年に群馬県内務部が発行した「群馬県蚕糸業沿革調査書」の『生糸之部』に上州座繰器の発達過程について次のように記している。

「坐繰機械の沿革に付^{つき} 佐波郡殖蓮村大字上植木村 矢島屯次郎に就て調査するに 同人は 先祖より 糸杵作業家にして 今尚ほ^{いまなお} 俗に 杵屋^{わくや}と呼べり 而して 糸杵作業を始めしは 何年の頃なるや 之を詳にせずと雖ども 寛政年間より享和年中 製作せし分^{および} 及其以来の品目等は左の如しといふ

第一 丑つ子（うしつこ）

之れは 杵尺^{およ} 凡そ 八寸位の角杵にして 前方に掛け 糸を繰りたるものなり

第二 軽業坐繰（かるわざざぐり）

之れは 三枚の坐を 立て重ねにして 其上に小坐を付し 杵は五寸四角なり 享和より文化に行はれたり

第三 平坐繰（ひらざぐり）

之れは 三枚の坐を 平に用ゐ^{もちい}たる謂なり 文化五年の新工風なり

第四 左手坐繰

之れは 坐を斜に掛け合わせ 山路形振竹を付け 且 棒先に 毛を結び付けて 糸を繰りたるもの 天保三年より作れり

第五 二つ取坐繰

之れは 左手坐繰を大にして 二杵掛けなり 安政二年より作れり

第六 一つ坐

之れは 第五の二つ杵を 嫌ふ者ありて 一つ杵にしたるのみ 慶応二年以後 追々 此坐繰となれり」

と記されている。

つまり、上州座繰器の前身は丑つ子（現在、丑首、牛首と呼ばれている道具）と呼ぶ四角杵であったが、享和から文化年間に坐（歯車）を用いた軽業坐繰（かるわざざぐり）を開発した。これが上州座繰のはじまりであると記し、この文面から坐（座）は明らかに歯車であることが読者にも一目瞭然読み取っていただけたものと思う。

ところが最近、座繰器について書かれた出版物などをみると「座繰器の座は歯車という意味をもっているようである」「座繰器の座は歯車のことらしい」という自信のない記述を目にしている。

確かに現在、書店で売られている漢和辞典や国語辞典、広辞苑等で「座」の字を調べても、いずれの辞典にも「歯車」という説明は全くされていない。

上族と族

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

シルクレポートのコラムの連載を始めて3年たち、蚕糸関係のイベントなどでお会いした方々に「毎回、読んでいます」「面白いです」等々、お褒めの言葉をいただくことがあります。大変ありがたい。普段あまり褒められることのない筆者にとっては大変励みになります。執筆意欲がわきます。褒めてください。逆に私の姿を上から下まで眺めて「貴方がコラムを書いている横山さんかあ、、、、」とおっしゃる方もいるが、「、、、、」のところは何が入るのか不安になるのでお止めください。また、このコラムについて電話をいただくこともありますが、繋がらないことが多いようです。だいたい飼育室に籠っていたり、講義・会議で居室を不在にしていることが多いので、質問等はなるべくメール（ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp）をお願いします。また、電話では残念ながらドナタからナニを言われたのか忘れてしまいがちです。先日、蚕業技術研究所の大沼博士よりコラムの内容について問い合わせ（メール）がありました。メンデルの法則を再発見した植物学者がノーベル賞を取ったと書いてあるが、如何なものかとのこと。調べてみたところ3名は受賞しておりませんでした。「ノーベル賞級の業

績」と「ノーベル賞受賞」を30年も勘違いしており、恥ずかしい限りです。粗忽もの故、時々間違えた記事を書いてしまう事があると思います。是非ご指摘ください。

回転族について

先月号のシルクレポートに回転族（かいてんまぶし、かいてんぞく）の記事が載っていた。筆者が大学に入学直後（1980年）、「族」が読めずにいたところ、「こんな漢字も読めないのか」と当時の教官に呆れられた記憶があるが、普通は縁のない単語だろ



図1 富国養蚕之図 歌川国利（1885）
国立大学法人東京農工大学科学博物館所蔵

う。読めなくて当然だろうと思ったことがある。「まぶし」は草冠の「族」と竹冠の「簇」の字がある。かつては蚕を営繭させる際、小枝や藁のような草本に営繭させていた「まぶし」と竹に営繭させていた「まぶし」があったため「族」と「簇」の字ができたのであろう。しかし、浮世絵などの絵をみるとほとんどが小枝か藁のようで、笹や竹は見当たらない（図1）。

現在でもインドやタイなどでは竹製の「簇」を使っているし（図2）、ウズベキスタンでは草の「族」を使っている（図3）。「族」と「簇」のどちらがよく使われるのかとGoogleで検索してみた。「族」が約484,000件、「簇」が約15,400,000件ヒットした。ヒット数の多い竹冠の「簇」の方がよく使われている（いた）ようだが、蚕糸用語辞典や養蚕のテキストでは草冠の「族」を使っており、以後、「族」で書かせていただく。

筆者は回転簇を見るたびによくできた装

置だと感心していたので前月号（シルクレポート No.54）の記事で開発の詳細を知ることができて興味深かった。昭和30年以降、日本のほとんどの養蚕農家では回転簇を使って上簇している。段ボールでできた13×13のマス目に蚕が一頭ずつ繭を作っていく。この段ボール簇を10枚で1セットにしている。1セットは13マス×13マス×10組で1,690個のマス目になる。そこにマス目の75～80%の熟蚕1,250～1,350頭を入れ、上簇させている。

回転簇は蚕の性質を大変上手く利用したものである。食桑期の蚕はほとんど歩き回らないが、何故か吐糸期になるとあたりをうろつき、上へ上へと登りたがる。蚕を飼っていると急に居なくなって天井と壁の隅に繭を作っていたりする。それまで桑葉をモリモリ食べている時はほとんど動き回ることがないので、上簇時にこんなに動くことができるのかとびっくりすることが多々



図2 インドの簇



図3 ウズベキスタンの簇

ある。野外の昆虫も蛹になる時、幼虫はそれまで食べていた樹から離れて、別の場所まで移動して蛹になる性質を持つものが多い。昔々家畜化される前の蚕の祖先は野外でこのような性質を持っており、そのまま受け継いできたのだろう。そう思ってカイコの祖先種と言われるクワコを観察してみた。クワコは常時登ったり下ったりウロウロ徘徊しているが、クワコは営繭時に上に乗って登っていくことは無かった。むしろ高い所より低いところで営繭する方が多かった。一体、どういうことなのか？ 蚕は営繭時に上に登っていく祖先種を家畜化したのか、はたまた、もっともっと昔に持っていた性質が家畜化する時に先祖がえりしたのか不明である。這い回る性質がいつ生じたのか分からないが、蚕は営繭時に上へ上へと登っていく。

さて、回転族に乗せられた蚕は営繭する場所を見つけるまで上へ上へと登っていく。マス目のどこかで繭を作ることを決めた蚕はそこで糸を吐き始める。営繭する場所（マス目）を決められなかった蚕はさらに上へ上へと登っていく。上に登った蚕が増えてくると回転族の上部が重くなって、クルリと回転して、集まった蚕がいる所が下にくる。そうするとまた蚕は下から吐糸する場所を求めて上へ上へと登っていく。何回か繰り返すとそれぞれの蚕がマス目に入って繭を作ることになる（図4）。

百年族とその作成について

農家では回転族を使っているが、私の研



図4 回転族の原理
上：営繭しない蚕は上に登る。
下：上部が重くなると回転する。

究室では半世紀も前の旧型の族である「百年族」を使っている。波型の族は稲ワラで編んだものが多かったようであるが、研究室のものは樹脂製である。筆者は百年族を学生の頃から30年位使っているが、ボロボロになってきた。百年持たないようだ。

百年族は十年以上前に生産中止になっているので困っていたところ、日本大学生物資源科学部の畠山吉則准教授が汎用品を使った作り方を開発してくれていた。

園芸資材のトリカルネットを切って、折り目をつければ完成である。トリカルネットは普通の鋏では少々切り難いので、ニッパで切るとよいだろう。折り曲げるのも少々堅く、ペンチ等で一旦折り目をつけて縛っておけば型がつく。この作成方法では自分の使う大きさの族を10分ほどで作ることができる。研究室では1区数十～数百頭で飼育しているので、頭数に合った大き



図5 トリカルネットでの族作成
ニッパで切る(上)、折り目をつける(中央)、完成(下)

さの族を作れるのは大変ありがたい(図5)。畠山先生様々である。

トリカルネットは園芸センターでm単位で切り売りしている。だいたい1m7百円くらいとのこと。族として使うには網目サイズは約25mmのものがよいそうである。

自宅や小学校で飼っている場合、回転族のような段ボールで格子を作って族にすることがある(図6)。段ボールの格子族は作成に意外に時間がかかるし、再利用が難しい。

それに比べてトリカルネットの族は簡単に作ることができるので、トリカルネットの族で蚕を上族させてみては如何だろう

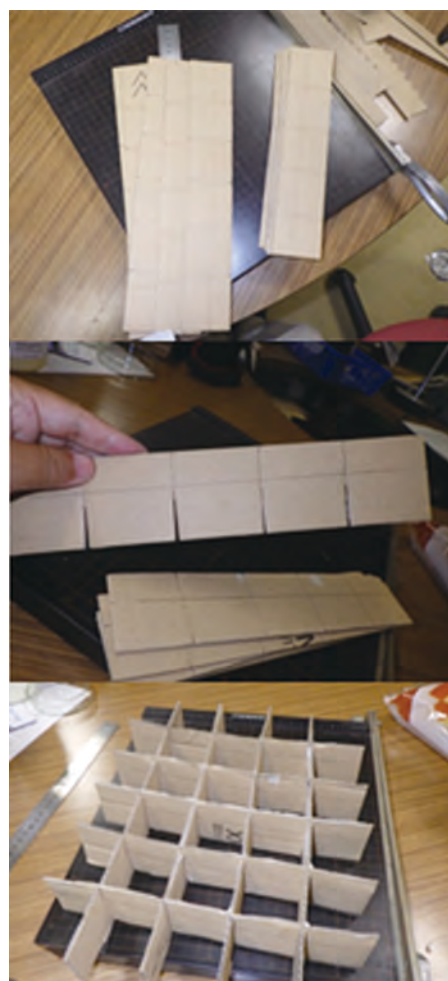


図6 段ボールでの族作成
長方形に切る(上)、切れ目を入れる(中央)、
組み合わせる(下)



図7 トリカルネット簇の営繭

か。青果用のネットや洗濯ネットをかけておけば蚕も逃げず、営繭の様子を観察することもできる（図7）。洗えば何度も上簇に使うことができるので一旦作っておけば大変便利である。簇の洗いは薄い漂白剤に少し漬けておき、タワシでこすれば簡単に絹糸が取れる。その後水洗いして日光消毒しておく。そのままにしておくと折り目が伸びてしまうので紐で縛っておくと良い。一家に一個、トリカルネット簇を作って蚕が吐糸、営繭しているのを眺めては如何だろうか。

【参考文献】

園芸用資材を活用した波形簇の考案、
畠山吉則・川上紗代子・石井麻美・山本裕一・志賀野倫明・
小田尚幸・岩野秀俊、蚕糸・昆虫バイオテック 80（3）、
243－245（2011）

ネットで読むことができる。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/konchubiotec/80/3/80_3_243/_pdf

■問い合わせ先：

東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室
〒183-8509

東京都府中市幸町 3-5-8

TEL：042-367-5681

E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp

HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

蚕糸絹文化の学校教育における継承

—「蚕を学ぶ奨励賞」受賞校の教育実践と課題—

高崎経済大学 経済学部 教授

大島登志彦

同 大学院経済・経営研究科博士後期課程 石関正典

1. はじめに

(一財)大日本蚕糸会は、2013(平成25)年度から「蚕糸絹文化学習教育奨励賞」(通称「蚕を学ぶ奨励賞」、以下この記載に統一)の表彰を始めた。この賞は、名称の通り、長年ユニークかつ優れた蚕糸絹に関わる学習活動を継続してきた学校を表彰し、一層の蚕糸絹文化を学校教育で普及・活性化させる効果を期待するものとする。2016年度までに14校が受賞し、それを図1に示す。本誌では、No.53に2016年度の受賞5校の実践概要が紹介されたが、それ以前は、校名のみで紹介に留まってきた。

筆者等を中心に、高崎経済大学大島ゼミナール・研究室では、これまで表題に関わる研究を、調査項目を変えて続けてきた。本研究では、ゼミ所属学生の足助寛人・広田惇郎(4年)と関上巧(1年)の3人を含めて、受賞校8校の蚕糸絹教育の実践を訪問調査した。以下、その概要を、福島・山形県と北関東・長野県に分けて2・3章で、唯一幼稚園の受賞であるピノキオ幼稚園(熊谷市)を4章でまとめた。5章では、今回の調査で考察された蚕糸絹文化の学校教育における課題と展望を考察する。以下

訪問校名の○番号は、図1に対応して順不同なことを、予めご了解いただく(併記した調査日は2016～17年)。



図1 受賞校の分布

2. 福島・山形県内3校への訪問調査

⑪川俣町立富田小学校(福島県)

川俣町は、江戸時代には生糸市・羽二重市が定期的開催され、明治から昭和初期にかけて、全国有数の羽二重の産地だった。



写真1 富田小学校の児童の活動を紹介した
手作りの資料

1989（平成元）年、郊外の3小学校が統合して創設された新しい学校で、3年生児童が、地域の特産物である絹を学習する総合的な学習のなかで、15年以上行なってきた。学校の敷地内に蚕小屋を設営し、蚕の飼育から収繭、出荷までの一連の作業や、機織り・染色なども体験してきた。

毎年4月、学校に隣接した桑畑（地域の方から借用）を整備する。6月に「お蚕様を迎える会」を実施、現在のJAふくしま未来川俣支店（以下JA）より3～4歳の蚕3,000頭の提供を受けて、地域の元養蚕農家などからなる「シルクボランティア」がサポートして、蚕が成育するまでの2～3週間観察する。6月中下旬に、上簇と繭かきを行うが、その際には昔の道具と現在の自動収繭機の両方を体験し、新旧の作業を比較する。

収穫した繭は、JAに出荷するが、一部を残して、2学期に機織り・染色を行って、コースター作りに使用する。これらの作業は、学校に近隣する「からりこ館」（道の

駅川俣、かわまたおりもの館に併設され、手織りや染色体験施設）で行っている。2学期には、お蚕様の迎えから収穫までを劇にした学習発表会や、機織りや染色体験の発表会も行う（写真1）。

3学期には、繭を出荷した収益で、繭玉細工を行ったり、シルクボランティアやJA職員の方々への感謝会を催す。また、授業参観では、1年間の学習内容を4班に分けて発表している（1月27日大島・石関調査）。

③山形市立蔵王第二小学校（山形県）

当校は、斎藤茂吉の出身校としても著名で、その関係資料は校舎内に展示され、校舎外には歌碑や斎藤茂吉記念館も造成されてきた。周辺は大養蚕地帯で、現在でも養蚕農家が数件残り、6月半ばからの春蚕を主体に、秋蚕や晩秋蚕も行われているという。

1992年頃から、総合学習の一環として、3年生が近隣の養蚕農家から蚕を頂戴して学校で飼育している。5齢になったら、各自10匹ずつ自宅で育て、蚕や繭の観察学習を始める。1998年頃からは、6年生が蚕の飼育や繭のコサージュ作りに取り組んできた。一部の繭をカッターで切断して蛹を取り出して行い、卒業式で胸に付ける。それはPTAの親子行事にもなり、近隣の養蚕農家から蚕や繭の飼育・活用指導を受けて、学校と地域が一体となった蚕育学習となる。それはまた、地域への愛着や生涯学習にも繋がる展開になってきたという。この間の2003年には、入院中の天皇陛下の御回復を願って、6年生が作った繭コサージュを宮内庁に贈り、それが「小さな親切

運動」にも発展したという。また、校舎内の一室に、養蚕関係主体の農機具類を収集した資料室「高岡歴史館」が設けられていたのが印象的だった(11月25日大島調査)。

⑤白鷹町立^{こぐわ}蚕桑小学校(山形県)

当校は、山形県内陸北部の西置賜郡白鷹町荒砥に位置する。この地域は、最上川中流域にあたり、最寄り山形鉄道フラワー長井線(旧国鉄長井線)の蚕桑駅である。豪雪地帯だが、学校や駅名は蚕糸を思い起こすものである。養蚕は、高度経済成長のピークだった1973(昭和48)年頃が全盛で、白鷹で850戸のうち600戸程度が養蚕農家だったという。

当校での蚕育学習は、2002年度より、山形県の専門指導員や地域の養蚕経験者、JA関係者の協力で「蚕の先生」を組織して飼育室を新たに整備し、総合的な学習として、全校生で蚕の飼育(3,000頭)と繭細工に取り組み、校庭に隣接する公園に桑並木を整備した。テーブルクロスを織る機織体験や、地域に呼びかけて、養蚕用具の収集も行ってきた。

2010年度以降は、総合学習の時間数が減少したため、3年生(養蚕と繭細工)と6年生(桑かけとコサージュ作り=卒業式で胸付)で継続している。また、同年より山形県蚕糸業会の啓発支援事業を受け、2012年度は、関係施設が整備されたほか、「かいこの学習資料室」が設置された。繭乾燥機や学習パネルも作製されて、効果的な蚕育学習を行なう体制にあることも受賞の一因と考える。また、県蚕糸業会から寄

贈された年表「蚕桑小学校のあゆみ」パネルも、有益な教材となっている(11月25日大島調査)。

3. 北関東・長野県で受賞した小学校の事例

⑬本庄市立秋平小学校(埼玉県)

所在する旧児玉町(2006年本庄市と合併)秋平地区は、今なお養蚕農家造りの家屋が現存し、「高窓の里」としてアピールされている。当校の教育の特色として、2005年に埼玉県が推進する「学校応援団」の指定を受け、20分休みに地域の方々との交流や諸体験をする時間を設けている。蚕育は、近隣の金屋稚蚕飼育場(旧児玉町内)より提供を受けて、3年生児童が6~7月の総合的な学習の時間に児童が玄関にテーブルを置いて行うが、家に持ち帰っても飼育しているという。

最近2年間、蚕育学習を指導した教諭自ら「日本絹の里」へ研修に出向いたり、地域の方々の支援を得て座繰り体験を導入したという。また、繭細工やうちわの製作(蚕を骨組みに這わせて糸を吐かせて製作)(写真2)、蚕に人工飼料を与えて繭の着色を試みたところ、児童は色々な着色方



写真2 秋平小学校 繭細工やうちわ

法を発見し、創造力の育成につながったという。近隣地域での養蚕は休止したが、地域の方々が桑の木の管理を続けており、長年、地域と一体になった取り組みをしてきた（1月13日大島・石関・関上調査）。

⑫前橋市立総社小学校（群馬県）

学校周辺はかつて養蚕地帯で、近隣に群馬県立蚕糸技術センターが立地して、蚕の卵の提供が可能なことなどから、2003年から蚕育学習を行ってきた。現在、3年生の総合的な学習時間の4～10月、「総社の今昔お蚕様の糸をたどって」という単元で計35時間実施される。事前学習として、上記センター職員の方の講話を設けて、児童たちは、蚕を卵の段階から、担任教諭の飼育の下で一定の大きさになるまで観察を行い、その後虫かごに入れて1人数匹ずつ飼育している。桑の葉は、元養蚕農家の方の寄贈で校庭に植えられた1本の桑の木から摘み取って、主に昼休みを蚕育に当てている。土休日には、児童は蚕と桑の葉を自宅に持ち帰って飼育するが、そのことが地域との交流の接点にもなり、最初は怖がっていた児童も、蚕に愛着がわくようになるという。

収穫した繭は蚕糸技術センターで熱処理して、座繰り体験や繭細工などを行う。また、図書室での調査や、養蚕経験者への聞き取り学習を行い、授業参観日に養蚕学習の成果を発表する。

3年生の蚕育は、理科の昆虫学習とも関連して実施されるが、4年生で富岡製糸場の見学、5年生で桐生市の織物工場（織物参考館“紫”）の見学と藍染めの体験学習も

行われている。それらを通して、3～5年次に体系的に養蚕から織物ができる工程の学習を、15年近くも継続してきたのである（1月17日大島・石関・足助調査）。

⑥高崎市立金古南小学校（群馬県）

高崎市郊外の都市化が進む地域で、1980年に新設、各学年3～4クラスを有する児童数の多い学校である。徒歩圏内に群馬県立「日本絹の里」が立地し、蚕育学習や繭クラフト作成等も長らく行ってきた。桑の葉は、養蚕農家が激減したため、3年前から「日本絹の里」の人工飼料を利用している。

蚕育学習は、3年生全員が当番制で蚕の世話をするが、真剣に世話する児童ほど、繭の形成段階で蚕が姿を変える寂しさを感じるという。4年生では、理科の一環で、蝶（モンシロチョウ）の学習と関連させて生物としての蚕を学び、その際、蛹を殺して糸を取ることに涙ぐむ児童もいるそう。また、6年生は、「日本絹の里」やPTA婦人部会員の訪問指導を受けながら、卒業式のコサージュ作りをする。

同校は、群馬県の2015年度の「絹文化継承プロジェクト」にも参加してきた（本誌2016年7月号参照）。担当教諭が、前職在任校でも蚕糸教育に積極的だったことや、「日本絹の里」の繭クラフト展に出品して入賞してきたことなど、蚕育の成果を校外にも発信してきた（1月13日大島・関上調査）。

⑦岡谷市立湊小学校（長野県）

製糸工業が全国有数だった岡谷市内は、

岡谷蚕糸博物館 - シルクファクトおかや - が立地し、館内では宮坂製糸所（市内現役唯一の製糸工場）が稼動するが、蚕糸遺産的建物は減少してきた。蚕育学習は、3年生の総合学習として、蚕糸博物館の専門指導員が、生後10日足らずの蚕を学校に持参して飼育を始めるが、毎回児童たちは、蚕の成長と脱皮に感嘆しているという。

岡谷市内では、他校でも蚕育学習や岡谷蚕糸博物館等の見学は行なっているが、同校では、校庭の一角に数種十数本の桑の木が植えられ（写真3）、養蚕とあわせて、桑の摘み取りから餌やりまでを児童に毎日体験させており、それらが有益な蚕育教育になってきたと考える（9月15日大島調査）。



写真3 湊小学校 校庭の桑の木

4. ⑨学校法人服部学園 ピノキオ幼稚園（埼玉県）

同園は、1981年に創立する。所在する熊谷市妻沼地域は、埼玉県北で最後まで蚕糸業が盛んだったので、地域の歴史文化との関連や環境教育としての位置付け、園児たちの知的好奇心を刺激しやすい教材であることなどから、蚕育教育を継続してきた

という。2016年度は、教材として販売される蚕の卵を購入し（前年度は3齢蚕から飼育）、年長・年中クラスで飼育し、併せて信州大学繊維学部から、「カイコ遺伝資源」として天蚕、柞蚕（さくさん）、ウスタビガの提供を受け、野生蚕と養蚕の比較飼育も行ってきた。

収穫した繭を使って、深谷市内の同園系列の老人ホーム開放日に、幼稚園の子どもたちや地元の小中学生と一緒に繭細工をしたり、桑の葉を入れたクッキーをつくる体験など、毎年の恒例行事と年毎のオリジナルメニューを組み合わせて、蚕を通して園児の創造力を養う教育が施されている。また、時代に即応して、蚕育を認知症の治療に生かす「蚕セラピー」や、老人ホームに温室を設けて、ヨナグニサンの保護活動も行っているという（1月17日大島・石関・足助調査）。

5. 「蚕を学ぶ奨励賞」の考察と蚕糸絹文化に関わる教育の位置づけ

受賞した14校の分布を概覧（図1）すると、南東北3県とそれに隣接した一関市を含めた地域に計7校、北関東・長野県内で6校が受賞するなど、地域的に偏在している。いずれも蚕糸業がさかんな地域で、それを教育に盛り込んで文化を継承しようとする意図が感じ取れた。また、東日本大震災で被害が甚大だったにもかかわらず、蚕育教育を継続し続けた学校も、受賞の要因の一端になったと考える。

3～5章で、訪問した8校を概要考察した。訪問できなかった6校については、資

料調査（大日本蚕糸会作成の受賞者名簿冊子）のみに留まったが、受賞校の多くは、地域の方々や農協等、近接施設や博物館の協力が、蚕育教育の支えになっていることが考察できた。このように、養蚕を基軸として、児童に蚕を家に持ち帰らせて育てたり、校庭に桑の木を植えて、桑摘みや餌付けを効果的に行っている。また、できた繭でコサージュや繭細工・繭クラフト作りを取り入れて、創造力を養う多面的な蚕育教育がなされてきたといえよう。限られたカリキュラムのなかで、養蚕のみに時間を割くのは困難であるとの声が聞かれるが、総合的な学習の一環に位置付け、地域の歴史調査や理科の生物学習などに関連させて蚕育を行う工夫も感じ取れた。養蚕や繭細工を指導する元養蚕農家の方々やボランティアの方々の高齢化に伴い、蚕糸絹教育の継続や歴史・文化を継承していくには、人材の確保や育成が課題となるだろう。

また、訪問8校のうち、山形県内2校と群馬県の総社小学校に、養蚕関係も含む歴史・民俗資料展示室（スペース）が設けられ、福島県の富田小学校でも、オープンスケールの構造空間に若干資料が展示されていた。

蚕糸絹文化の継承の基本は、民具や資料の保存にある、と考えた一端の調査として、富田小学校を訪問した午後、伊達市郊外の「泉原養蚕展示室」を訪問した。そこは、廃校を利用した蚕種・養蚕に特化した資料室で、地元から寄贈されて「伊達地方の養蚕関係用具」として国登録文化財になったものを含む4,000点以上の器具・資料が、

各教室と廊下に並んでいた。

その中に奥州座繰りが数点保存されていた。私たちは、それらを1形態と見なし、「1つ残せばよい」という発想だが、そこでは、1種類の用具でも、地域や時代の特性に細分化した多数の地域遺産とし、区分けし、保存・整理されていることに感嘆した。

中山間地域では、少子化による空き教室の増加や学校統廃合が進んでいる。有効活用されない廃校の広いスペースの活用策として、既存の資料館等とは異なる独自の資料を分別収集して、地域遺産の継承と身近な地域の学習教材展示館（室）として整備していく制度や慣例が生まれることを望むものである。

6. おわりに

本調査は、（一財）大日本蚕糸会の補助を受けた2016年度の蚕糸絹科学文化活性化推進事業（蚕糸絹科学文化支援事業）の一環として行ったものである。調査の概要は、2017年2月に報告書冊子をまとめ、3月5日に高崎経済大学で、群馬県教育委員会教育長の笠原寛氏の記念講演を含めた研究発表会を行なった。本稿は、研究報告の骨子をまとめたものである。児童の反応や養蚕・繭細工に取り組む姿はほとんど観察できなかったが、校長・教頭先生や蚕育教育を直接担当した教諭と懇談して、作品や文集を見せていただけたことで、蚕糸絹文化の教育意義や課題の一端が考察できたと考える。調査に協力いただいたの方々や学校、関連諸施設に感謝申し上げます。

桑の害虫について

— 発生生態と防除法 —

一般財団法人 大日本蚕糸会

蚕業技術研究所

嘱託研究員 市橋隆壽

はじめに

桑樹は桑園に発生する害虫にとって美味しい食料であり、かつ繁殖や越冬の場所となって被害をもたらしています。他方、桑園に発生する害虫の中でもチョウ目昆虫（蝶や蛾の仲間のこと）は、場合によっては蚕病の伝染源にもなりうるということが明らかになっており、この面からも害虫の防除は重要です。また、害虫の種類によって被害が発生する桑樹の部位や時期なども異なることから、その防除も適期を見極めて実施しなければなりません。

そこで今回は、そのまま放置しておくと被害が拡大する桑園害虫を中心にその発生生態と防除法について記述します。

1. キボシカミキリ

桑を食害するカミキリムシ類には、キボシカミキリ（写真1）、クワカミキリ（写真2）、トラフカミキリ（写真3）が一般的です。この中でも、キボシカミキリの被害が最も多く、多発した場合には桑株を枯死させることも多々あります。また、カミキリムシ類特有の株（幹）の中を食害する穿孔性害虫であることと、1株の中に数匹の幼虫が同時に食害するなど難防除害虫

でもあります。

発生生態：成虫は6～9月頃にかけて発生し、その後2～3ヶ月間生存しながら300個前後の卵を樹皮下に産卵します。夏季に産卵した卵は約10日後にふ化して樹皮下の周辺を食害しながら生息し、成育が進むにつれて木質部の深くまで食害します。この時、木部を食下した幼虫は樹体外へ糞



写真1 キボシカミキリ成虫



写真2 クワカミキリ成虫



写真3 トラフカミキリ成虫



写真5 アメリカシロヒトリの被害



写真4 カミキリムシによるフラス



写真6 アメリカシロヒトリ幼虫

などを排出し、桑の根元付近には^{のこぎり}鋸くずのような「フラス」と呼ばれるものが見られます（写真4）。

防除法：成虫は発生後、主に若い葉を食害しますので、その時期に一般的な殺虫剤を散布して防除します。また、キボシカミキリは桑の株（幹）部に産卵することから、桑の仕立ての際には株を低くすることも被害の軽減になります。さらに、樹勢が低下した桑株、例えば夏秋期に深切りした場合にも産卵数が多くなり、被害も拡大することが知られています。従って、樹勢の維持・増進を図る栽培法が重要です。

そして、樹皮下の卵や幼虫に対しては浸透性の殺虫剤を散布します。また、前述のフラスの排出口へ容器に付いたノズルを差し込ん

で、穿孔性害虫を駆除するエアゾールタイプの殺虫剤も市販されていますので、発生密度が少ない時は有効な防除法となります。

2. アメリカシロヒトリ

この害虫は、食性が広くサクラなどの街路樹を食害することでも知られていますが、桑園においても多々見かける害虫で、油断していると幼虫が分散して桑葉を食害し収穫皆無に陥る場合もあります（写真5）。

発生生態：成虫は体長約 15mm の白色の蛾で、通常年に 2 回発生します。1 回目の発生は 5～6 月頃で、葉の裏に産卵します。産卵後ふ化した幼虫は巣網（糸で覆った巣）を作り（写真6）、中齢までは集団で移動しながら食害します。その後、成長に伴い



写真7 スキムシの若齢幼虫

分散して単独で生活するようになると桑葉を食べる量も多くなり、被害も拡大します。

2回目の発生は7月下旬頃から見られ、第1回目と同じ様な生態を示し、9月中旬頃から蛹化が始まり、蛹で越冬します。

防除法：幼虫の初期成育は巣網の中で生活しているので、この時期に切り取って回収し、焼却処分するのが最も効果的な防除です。捕殺時期が遅れて幼虫が分散してしまった場合は殺虫剤を散布して防除します。

この他、近隣の遊休桑園や前述の街路樹等からの飛翔で思わぬ被害が発生することもありますので注意が必要です。

3. クワノメイガ（スキムシ）

発生生態：成虫は体長約10mmで、翅には褐色～黒褐色の条斑があります。幼虫はスキムシとも呼ばれ、淡緑色から老熟幼虫は淡赤褐色を呈します（写真7）。体長は終令幼虫で約18mmとなり、樹皮の裂け目や空洞または枯れ葉の下などで薄い繭を作り越冬します。

繭の中で蛹化した後、成虫が5月中旬頃から発生し、桑葉の裏側に200個前後を



写真8 シキムシによる被害

産卵します。ふ化した幼虫は葉脈にそって食害し、その葉はすけて見えるようになることからスキムシと呼ばれるようになったようです。

年に3～5回世代を繰り返しますが、晩秋蚕期頃に出現する世代は数も多く、被害も大きくなる傾向にあります（写真8）。

防除法：この害虫には約20種の子敵昆虫が知られており、発生の拡大防止に役立っています。このことから、殺虫剤による防除は必要最小限に努めます。また、多発が予想される場合でも、防除適期が8月下旬～9月であることが多く、この時期は丁度晩秋蚕期と重なるタイミングであることから、飼育時期、殺虫剤の残毒期間の長短などを考慮して防除をします。

4. クワシロカイガラムシ

発生生態：成虫の雌は陣笠状の貝殻に覆われて樹皮面に固着して生息しています。卵は貝殻の中で産下され、約1週間後にふ化して貝殻からはい出して分散します。分散した幼虫はその周辺の株基を好んで定着し、樹液を吸収して成長しながら体の表面

にろう物質を分泌して殻を作りその中で生息します。

通常、年3世代を繰り返し、幼虫と成虫が枝や幹に群棲^{ぐんせい}して（写真9）樹液を吸収するため、寄生した部位・株が枯死することとも多々見られます。

第1世代は5月下旬頃から、2世代目は7～8月頃、3世代目は9～10月頃に発生し、成虫で越冬します。

防除法：散発的に発生した場合はブラシやタオルまたは手袋をしてしごき落とすのが有効な防除法です。また、発生密度が多い場合は カイガラムシ用の殺虫剤を散布します。但し、農薬の種類によっては桑の芽や葉に影響を及ぼすこともありますので注意して散布します。通常は落葉期に越冬成虫を対象に防除します。

5. その他注意が必要と思われる害虫

春切り桑園の発芽期に芽や若齢葉を食害するハムシ類（写真10）、クワヒメゾウムシ並びに夏切り桑園の新梢発芽期の芽を食害するクワエダシャク、モンシロドクガの幼虫（通称キンケムシ・写真11）にも注

意が必要です。特に、キンケムシはチャドクガと同じように毒を持っており、肌に触れると痛みや赤く腫れたりしますので注意が必要です。

夏季には、シントメタマバエの発生が見られ、伸長した枝の頂芽へ産卵し、ふ化した幼虫が頂芽を食害することで、その枝の伸長を停止させてしまいます。

また、夏秋期の乾燥した時にはクワアザミウマやハダニ類の発生も見られ、桑葉に被害が生じます。

この他、ハゴロモ類（写真12）やヨコバイ類の発生は、吸汁性害虫として桑の病気を媒介することから、特に桑萎縮病などが発生している所では注視する必要があります。さらに、根を加害する害虫としては線虫や西南地域ではゾウムシなどの発生も見られますので注意が必要です。

おわりに

桑に加害する害虫は、年次や季節によって発生数の多少が見られますが、桑に影響を及ぼす事には変わりありませんので、常に注意をしながら対策を講じる必要があります。



写真9 クワシロカイガラムシの群棲



写真10 クワハムシの成虫



写真 11 モンシロドクガの終齢幼虫



写真 12-1 スケバハゴロモの成虫



写真 12-2 スケバハゴロモの幼虫

ります。

また今回は、日進月歩の薬剤も多いことから殺虫剤の具体的な商品名を記述していません。特に、植物体内に浸透し残毒期間が長い農薬や BT 剤などの生物農薬、そして、近年は害虫の成長、脱皮、羽化などを阻害する薬剤(IGR 剤)も販売されています。

新製品の薬剤も含め、使用に際しては充分注意すると共に、農業改良普及センターなどと相談し、適正な農薬と散布時期などを確認しながら使用することをお勧めします。

発生した害虫への対応がわからない場合は、お問い合わせ下さい。その際、被害の写真や害虫の写真などを添付いただけると、より正確な対応が出来ますのでお願いします。

■問い合わせ先：

一般財団法人 大日本蚕糸会

蚕業技術研究所 栽桑チーム

〒 300-0324

茨城県稲敷郡阿見町飯倉 1053

TEL：029-889-1771

FAX：029-889-2356

代表：E-mail：matsukawa@silk.or.jp

E-mail：ichihashi@silk.or.jp

蚕飼育作業における身体的負担の軽減

－ 新規参入者が簡便に取り組める飼育技術の開発 －

群馬県蚕糸技術センター

蚕糸研究係 清水健二

【研究目的】

養蚕農家の高齢化が進み、新規参入者も極めて少ないため、農家戸数や繭の生産量は、減少に歯止めがかからない状況が続いていました。

このような中、平成26年6月に富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産に登録されたことを契機に蚕や絹製品への関心が高まり、養蚕に新規参入を希望する方からの相談や問合せが多くなっています。群馬県内では、平成26年度から28年度の間個人3名、2団体、4企業が養蚕を開始しました。

しかし、新規に養蚕を開始する場合、蚕の飼育に必要な資材の多くが製造・販売中止となっており、従来の飼育資材を揃えることが難しい状況になっています。また、蚕の飼育作業には桑収穫や給桑だけでなく、2人一組で行う除沙や、前屈み姿勢のままで蚕を拾いあげるなどの作業があり、重労働を強いられる場面が多くあります。そのため、飼育中の除沙や上簇時の回転簇の吊り下げ作業が1人でも可能になることや、腰などの身体的な負担が軽減される作業方法、桑収穫作業の効率化などについて、養蚕新規参入者から技術開発の要望が出されました。

そこで、量販店で容易に入手可能な資材を利用した簡易な飼育台（以下「新飼育台」という）を開発し、現地実証試験を実施して適応性を調査しました。また、電動アシスト剪定鋏を利用して桑収穫作業を省力化したので、これらについて紹介します。

なお、本研究は（一財）大日本蚕糸会の貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成事業（平成27年度～28年度）で実施しました。

【研究内容及び成果】

1 新飼育台の開発

量販店で入手が可能で長さ調整が容易に行えるイレクターパイプ、プラスチックジョイント、キャスターを利用して、可動式の新飼育台を開発しました（写真1）。

新飼育台は、手軽に自作できるように

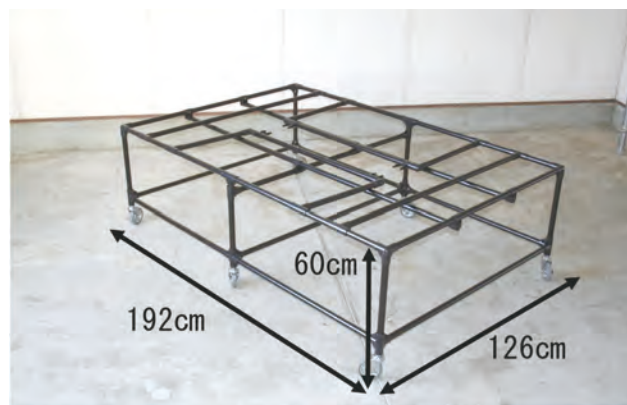


写真1 開発した新飼育台

するため、45、90、120cm等の規格長で販売されているイレクターパイプを利用しました。蚕座の高さは、従来農家で使用している飼育台（以下、「旧飼育台」という）が20cm程度のところを、腰への負担を軽減するため、作業者の腰の高さを目安として40cm上げて60cmとしました（作業者の身長に合わせて蚕座面の高さを設定する



写真2 回転族を架けた新飼育台



写真3 2人組での除沙作業



写真4 1人での除沙作業

ことが可能)。

新飼育台の蚕座面（幅192cm×奥行126cm）にパッカーで固定した1mm目の網（以下、「飼育網」という）の上に、もう1枚同じ飼育網を重ねて敷き、その上で1台あたり2,500頭の飼育を行います。

また、この飼育台に起倒式の支柱を取り付けることにより、回転族を2基架けられるように工夫しました（写真2）。これにより壮蚕飼育から上簇までをこの飼育台で行うことができるため、飼育室でそのまま上簇できます。なお、この新飼育台の資材費は約28,000円ですが、部分的な材質変更によるコスト削減も検討していきます。

2 新飼育台での作業方法

（1）除沙方法

旧飼育台では、2人一組で蚕座内に入れた縄や網を持ち上げ、別の場所へ移動し、残渣中の蚕を拾ってから片付けます（写真3）。

新飼育台では、蚕座を2.5cm目の網で覆ってから2回給桑し、網を一方の端から巻き上げ、別の飼育台に転がして移すことで、1人作業が可能になりました（写真4）。

（2）上簇方法

熟蚕の収集は、従来と同じ条払いで行います。

旧飼育台では、上簇室で回転族に熟蚕を投入し、熟蚕が回転族に這い上がったことを確認した後、回転族を天井から吊します。

新飼育台では、飼育台上の残渣を片付け、飼育台に取り付けた支柱を立てた後、飼育台の上で熟蚕を回転族に投入（写真5）し



写真5 熟蚕の投入



写真7 残渣の結束作業



写真6 1人で支柱に架ける

ます。熟蚕が回転族に這い上がったことを確認し、支柱に回転族を2基架けます（写真6）。この方法は、熟蚕を上族室に運搬することや、回転族を高い位置まで持ち上げる必要も無いため、1人でも作業が可能です。

3 現地実証試験

(1) 農家の概要と試験方法

新飼育台の実証試験を行った農家は、富岡市内で新しく養蚕を始めて3年目の男性（20代）です。蚕室は木造平屋建て、間口7m、奥行14mで床面はコンクリートの構造です。平成28年の初冬蚕期に、旧飼育台と新飼育台で各1箱（3万頭）の飼育を行いました。供試蚕は、稚蚕（1～3齢）人工飼料育した「ぐんま200」です。

(2) 試験結果

新飼育台は旧飼育台と形状や材質が異なるのみで、環境条件等是不変わるため、飼育成績に差は認められませんでした（表1）。

表1 現地実証試験の飼育結果

飼育台の種類	収繭量 (kg)	500g粒数 (粒)	繭重 (g)
旧飼育台	47.1	311	1.61
新飼育台	46.3	314	1.59

新飼育台は、キャスターが付いているため、移動が簡単で、効率的に除沙や給桑を行うことができました。また、蚕座面が高いため、腰をかがめた作業が少なく身体への負担を軽減できました。

蚕座に重ねて敷いた飼育網の間に縄を入れると、残渣を飼育網で包み、縄で結束できるため、残渣搬出が容易に行えました（写真7）。

一方、新飼育台は旧飼育台のように網で箱形に囲われていないため、蚕が落下する恐れがあります。飼育台から蚕の落下を防ぐため、飼育台の長辺同士を合わせ、蚕座下の飼育網を掛け合わせるなど隙間を無くすることで、落下を防ぐことができました（写真8）。



写真8 新飼育台の飼育状況

4 桑収穫作業の省力化

桑収穫は、全養蚕作業の20%以上を占める重労働であり、トラック運搬以外の鎌や剪定鋏を使う刈取り、結束、積み下ろしなどの作業は人力に頼っています。そこで、収穫作業の負担を軽減するため、果樹剪定用に開発された電動アシスト剪定鋏による桑収穫を調査しました。

(1) 電動アシスト剪定鋏の概要

使用した電動アシスト剪定鋏は、スターテング工業株式会社製の「アシストくん」(写真9)です。

本機は動力補助機構付きの剪定鋏で、にぎる手に負荷がかかる切断作業を行った場合、ワイヤーにより約20kgfの動力アシストをします。

動力源は家庭用のコンセントから充電が可能なバッテリーです。バッテリーを含む本体の重量は約1.6kgと軽く、エアー剪定鋏のようにコンプレッサーや圧縮空気を送るゴムホースが無いため、女性や高齢者にも取り扱いやすく、機動性、操作性の高い製品です。価格は約76,000円です。

(2) 調査方法

調査は、前年度の晩秋蚕期に中間伐採し



写真9 電動アシスト剪定鋏「アシストくん」

た当センターの圃場を使い、太い古条から新梢が伸びている春蚕期に行いました。

桑収穫作業は養蚕への新規参入を考えている男性1名(30代)、女性2名(20代、30代)に協力いただき、一般の剪定鋏と電動アシスト剪定鋏を使用してそれぞれ10分間に株元から古条の剪定を行い、収穫した株数と枝条数を調査しました。

桑は平成24年4月に植え付けた「はやてさかり」です。

(3) 調査結果

調査結果は(表2)のとおりです。

収穫した株数、枝条数ともアシスト剪定鋏を用いた方が同じ時間でたくさん収穫できることがわかりました。特に女性の場合は対剪定鋏指数が高かったことから、男性より女性、若者より高齢者等、体力の弱い人が使用するとより効果的であることが示唆されました。

表2 春蚕期における桑収穫作業の調査結果

作業者	作業時間	桑株数(株)			枝条数(本)		
		剪定鋏	アシスト 剪定鋏	対剪定鋏 指数	剪定鋏	アシスト 剪定鋏	対剪定鋏 指数
男性(30代)	10分間	12	13	108	102	107	105
女性(20代)	10分間	7	11	157	55	71	129
女性(30代)	10分間	10	17	170	85	121	142

使用感について尋ねたところ、「力が少なくて済んだ」、「疲れにくかった」、「楽になった」などの回答があったことから、アシスト剪定鋏を利用すると桑収穫時の疲労が少ないため、ペースを落とさず継続して作業ができると考えています。

【今後の展開】

新規参入希望者が養蚕に取り組む場合、農家で使われているような飼育台を製造販売している企業は無いため、量販店で入手可能な資材を利用して手軽に自作可能な新飼育台を開発しました。この飼育台を使うことによって、除沙や回転簇の吊り下げ作業が1人ででき、身体への負担を軽減できる作業方法を体系的に検討しました。

今後は熟蚕収集作業の省力化を図るため、新飼育台に合わせた条払い機の開発を進めたいと考えています。また、桑の運搬や給桑、残渣処理など様々な作業について、身体負担の軽減が図れるように、作業方法を工夫していきたいと考えています。

■問い合わせ先：

群馬県蚕糸技術センター

蚕糸研究係 清水健二

〒371-0852

群馬県前橋市総社町総社 2326-2

TEL：027-251-5142

FAX：027-251-5147

E-mail：shi-ken@pref.gunma.lg.jp

蚕糸・昆虫機能利用の基礎研究から実用化まで

一般社団法人 日本蚕糸学会

庶務幹事 河本夏雄

日本蚕糸学会は、蚕糸に関する学術の進歩と普及を図ることを目的として 1930 年に社団法人として設立され、2013 年に一般社団法人に移行しました。本学会は長年にわたり、クワ、カイコ、糸や養蚕経営まで、一連の過程を含めた蚕糸学を対象分野としてきましたが、近年の蚕糸業を取り巻く情勢の変化や、ゲノム解析や遺伝子組換え技術の開発などの進展を受けて、カイコ以外の昆虫が持つ有用形質の活用なども加えた昆虫機能利用研究にも活動領域を広げています。このような研究分野の多様性に加えて、基礎的な研究から実用化のための技術開発まで受け入れる懐の深さが日本蚕糸学会の特徴です。

主な活動は学術講演会の開催と学術誌の出版です。学術講演会は、毎年 1 回、「蚕糸・昆虫機能利用学術講演会」として開催していて、直近では 2017 年 3 月に茨城県つくば市で開催しました（写真 1）。次回は 2018 年 3 月に名古屋大学で開催される予定です。このほかに、全国 5 支部がそれぞれ支部大会などを開催しています。学術誌としては、和文誌「蚕糸・昆虫バイオテック」、英文誌「Journal of Insect Biotechnology and Sericology」を年 3 回ずつ発行しています。いずれも原著論文は J-STAGE で無料公開されています。また、「蚕糸・昆虫バイオテック」では、最新の昆虫機能研究について毎号テーマを設けて総説



写真 1 平成 29 年度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会
(2017 年 3 月 茨城県つくば市)

記事を掲載する特集に力を入れています。

最近の学術講演会ではカイコを対象にした研究が一般講演の約半数ですが、そのほかにも、野蚕やスズメバチ、テントウムシ、バッタなどの他の昆虫や、ウイルス、シルクやフィブロインなど、様々な研究が報告されています。カイコの研究でも、ゲノムや遺伝子機能、ホルモンによる成育制御などの基礎研究、遺伝子組換えやゲノム編集などの技術開発など、扱うテーマは様々です。近年は、遺伝子組換えカイコを用いた有用物質や高機能シルクの生産が実用化され始めていることもあり、民間企業の参加も増えています。

このような研究を支える基盤として、カイコの遺伝資源の維持・活用も重要です。カイコはこれまでに体色や形態、休眠性、食性、耐病性など、多くの突然変異系統や地理的品種が収集され、日本独自の遺伝資源として維持されています。様々な生物の遺伝資源を国が戦略的に整備しているナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)でも、開始時から継続してカイコ

が採用されていて、日本蚕糸学会としてもその重要性を認識し、活用を呼び掛けるなどの支援を進めています。最近では、一般の方にカイコの遺伝資源やそれを活用した研究を知ってもらうための広報活動も始めています(写真2)。

また、日中韓の3か国が中心となって、蚕糸・昆虫機能利用研究の国際連携を強化し、さらに研究を推進するために、アジア-太平洋蚕糸・昆虫バイオテクノロジー会議(APSERI、Asia-Pacific Congress of Sericulture and Insect Biotechnology)を開催しています。これまでの韓国(2006年・2015年)、日本(2008年)、中国(2012年)に続いて、今年2月にはタイでも開催され、今後はインドとの関係強化も期待されます。

日本蚕糸学会には、蚕糸・昆虫機能利用の幅広い分野の専門家が集まっています。昆虫を用いた基礎研究から、今後の発展が期待される「新蚕業」まで、様々な形での連携が可能ですので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。



写真2 サイエンスアゴラでの展示
(2016年11月 日本科学未来館)

■問い合わせ先：

一般社団法人日本蚕糸学会

〒305-8634

茨城県つくば市大わし1-2

国立研究開発法人農業・食品産業技術
総合研修機構内

一般社団法人日本蚕糸学会 事務局

TEL&FAX：029-838-6056

E-mail：jsss@silk.or.jp

イベント情報

● シルクと私。～有楽町であいましょう！～

東京で生まれたシルクがあります。ほとんどの東京人はみたことがありません。
でも、逢えるんです！幼い頃のシルクのぬくもりに。感動します！母の手技に。
有楽町で！お待ちしております。

<会期> 平成29年10月20日（金）～24日（火）

10:00～18:00 （最終日は16:30まで）

<主催> 東京シルクの会・多摩シルクライフ21研究会

<会場> ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階

TEL: 03-3215-1212

● 2017 伝統工芸ふれあい広場・TOKYO

伝統工芸品の持つ、一般工業品と異なる特性（手作りであること、技術・技法の伝統性、天然の原材料等）を、作り手と使い手のふれあいの場を通じて一般消費者に広くアピールする。特に国内はもとより外国観光客等に向け、各地域の伝統的なものづくりや使用について理解を深めてもらう。

<会期> 平成29年11月4日（土）～6日（月）

11:00～19:00 （最終日は17:00まで）

<主催> 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会

<会場> 東京国際フォーラム・JPタワー・KITTE 他

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

<問い合わせ先>

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 TEL: 03-5785-1002

● 第56回農林水産祭「実りのフェスティバル」

農林水産業と食に対する国民一般の理解の増進と農林水産物の消費拡大等に資するため、都道府県、農林水産関係団体の協力を得て、「実りのフェスティバル」（農林水産業啓発展示及び地域農林水産展）を開催します。

<会期> 平成29年11月10日（金）～11日（土）

10:00～17:00 （最終日は16:00まで）

<主催> 農林水産省・公益財団法人日本農林漁業振興会

<会場> サンシャインシティワールドインポートマートビル4F

〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-1

<問い合わせ先>

公益財団法人日本農林漁業振興会 TEL: 03-6441-0791

● ちりめん創作人形展 ～秋彩歳時記～

高崎市在住の人形作家・竹本京さんの「秋」をテーマにした新作を中心にした人形の肌のちりめんや髪の毛の絹糸、衣裳の着物の古裂など「絹」という素材にこだわりを持って作られた人形を展示し、絹の魅力を紹介します。

＜会期＞ 平成 29 年 10 月 21 日（土）～12 月 11 日（月）

開館時間：9:30～17:00 休館日：火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日）

＜主催＞ 群馬県立日本絹の里

＜会場＞ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1 TEL：027-360-6300

● 糸を組む ～あなたの知らない組紐の世界～

和服の帯締めなどに使われる組紐は、時代とともに用途、デザインが変化してきました。奥深い組紐の世界をご紹介します。

＜会期＞ 平成 29 年 10 月 26 日（木）～平成 30 年 1 月 21 日（日）

開館時間：9:00～17:00 休館日：水曜日・祝日の翌日

＜主催＞ 岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

＜会場＞ 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8 TEL：0266-23-3489

● 「横浜・生糸」ものがたり“カイコと暮らす” ～かながわの養蚕録～

養蚕は、蚕を飼育し繭を作らせ、それを出荷することで農家にとって大きな現金収入となることから、魅力ある生業でした。神奈川県内にも多くの養蚕農家がありましたが、平成 22 年を最後にその歴史の幕は下ろされました。そこで本展では古文書や写真、浮世絵、そして道具などの展示から“かいこ”との暮らしを振り返ります。

＜会期＞ 平成 29 年 10 月 7 日（土）～11 月 12 日（日）

開館時間：9:30～17:00 休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

＜主催＞ 横浜シルク博物館

＜会場＞ 横浜シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 1 番地 TEL：045-641-1841

「お詫びと訂正」

No. 54 号（2017 年 7 月 1 日発行）の一部に誤りがありましたので、お詫びするとともに、下記の通り訂正をお願いします。

	誤	正
53 ページ	(株)伊と幸 製織：芳賀織物	製織：羽賀織物
53 ページ	(株)伊と幸 製織：阿見保織物	製織：河見保織物
62 ページ	(有)浅井ローケツ 所在地：京都市中央区	所在地：京都市右京区

平成 29 年度第 2 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 29 年度第 2 次審査委員会を平成 29 年 8 月 22 日（火）に開催しました。今回は、11 者から申請があり、新規 1 者 2 品目、使用許諾されている者の 1 者が製品の追加 1 品目、履歴の追加 4 者 7 品目、数量の追加 6 者 14 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、11 者 24 品目に対し、8 月 29 日（火）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (株) カネヒサクリエーション 代表者名：中田勝幸 (担当者：金田義晴) 〒 920-0022 石川県金沢市北安江 4 丁目 11 番 18 号 TEL：076-263-2550 表示者登録番号 222	白生地（表地）	33 反	蚕品種：錦秋×鐘和、春嶺×鐘月 繭生産：JA 前橋市・JA 高崎市管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：織元 遠藤 販 売：（株）カネヒサコーポレーション
	白生地（表地）	22 反	
(数量の追加) (株) 京のきもの綾錦 代表者名：西川剛司 (担当者：西川剛司) 〒 615-8282 京都市西京区松尾大利町 20 番地 148 TEL：075-393-6520 表示者登録番号 217	白生地 (色無地用)	34 反	蚕品種：錦秋×鐘和 繭生産：JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：織元 遠藤
(履歴の追加) (株) ソーホー 代表者名：奥村尚司 (担当者：小島秀夫) 〒 600-8357 京都市下京区猪熊通五条下ル柿本町 606 番地-1 TEL：075-353-8802 表示者登録番号 200	先染反物 (大島紬)	60 反	蚕品種：春嶺×鐘月 繭生産：JA 高崎市管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：本郷商事（株）
(製品の追加) (株) やまと 代表者名：田村裕二 (担当者：高原達也) 〒 151-0051 渋谷区千駄ヶ谷 5 丁目 27 番 3 号 TEL：03-3354-0345 表示者登録番号 059	白生地 (加賀友禅用)	330 反	蚕品種：ぐんま 200 繭生産：JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：江原産業（株）
(履歴の追加) (株) さが美 代表者名：西脇秀雄 (担当者：向後秀俊) 〒 254-0013 神奈川県平塚市田村 8 丁目 21 番 9 号 TEL:0463-52-0850 表示者登録番号 031	後染反物 (色無地)	100 反	蚕品種：錦秋×鐘和 繭生産：JA 碓氷安中・JA 前橋市管内 養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：田勇機業（株） 染 色：（有）理公

(履歴の追加) 那覇伝統織物事業協同組合 代表者名：赤嶺真澄 (担当者：高良智子) 〒903-0822 沖縄県那覇市首里桃原町2丁目64番地 TEL：098-887-2746 表示者登録番号 156	先染反物	30 反	蚕品種：ぐんま 200 繭生産：JA 太田市内管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 染 織：自組合
	先染帯地	100 本	
	かりゆしウエア	20 枚	
	ショール	25 枚	
(数量・履歴の追加) (株)丸万中尾 代表者名：中尾浩祥 (担当者：中尾浩祥) 〒526-0835 滋賀県長浜市室町180番地 TEL：0749-62-1660 表示者登録番号 028	(数量の追加) 後染反物 (江戸小紋)	60 反	蚕品種：ぐんま 200 繭生産：JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：南久ちりめん（株） 染 色：（株）一会
	(履歴の追加) 後染反物 (江戸小紋)	120 反	蚕品種：ぐんま 200 繭生産：JA 甘楽富岡管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：羽賀織物 染 色：（株）一会
(数量の追加) 織匠万勝 代表者名：前田 章 (担当者：前田 健) 〒604-8267 京都市中京区姉小路通堀川東入る鍛冶町173-1 TEL：075-257-5747 表示者登録番号 026	後染反物 (色無地)	15 反	繭生産：JA 佐波伊勢崎管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 製 織：自社 染 色：岩崎染工 販 売：（株）クワバラ
	先染帯地 (袋帯)	86 本	繭生産：JA 佐波伊勢崎管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸（株） 染 織：自社
(数量の追加) (株)高島屋 代表者名：木本 茂 (担当者：伊藤ゆ香) 〒542-8510 大阪府中央区難波5丁目1番5号 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030 (株)高島屋の続き)	後染反物(振袖)	12 枚	繭生産：JA 那須南管内養蚕農家 製 糸：松岡（株） 製 織：美雲織物（株） 染色加工：（株）千總
	後染反物(振袖)	32 枚	繭生産：JA 那須南管内養蚕農家 製 糸：松岡（株） 製 織：（株）松浦絹織 染色加工：（株）千總
	後染反物(振袖)	76 枚	繭生産：JA 那須南管内養蚕農家 製 糸：松岡（株） 製 織：（株）竹林 染色加工：（株）千總
	後染反物(振袖)	20 枚	
(数量の追加) (株)小倉商店 代表者名：小倉敏行 (担当者：小倉進吾) 〒307-0001 茨城県結城市大字結城116番地 TEL：0296-32-2121 表示者登録番号 041	先染反物 (結城紬)	20 反	蚕品種：朝・日×東・海 繭生産：JA ふくしま未来管内養蚕農家 真綿生産：（有）関根商店 手紬糸生産：自社 染 織：自社
	先染帯地 (結城紬)	35 本	

(数量の追加) 田中種 (株) 代表者名：田中 隆 (担当者：田中 隆) 〒 541-0054 大阪市中央区南本町 2 丁目 1 番 14 号 タイヨマビル 3 階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	ニット (手袋) ①	500 双	繭生産：JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸 (株) 撚 糸：昭和撚糸工業 (株) 製編・縫製：(株) 今川
	ニット (靴下)	300 足	繭生産：JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸 (株) 撚 糸：昭和撚糸工業 (株) 製 編・縫製：タビオ (株)
	ニット (手袋) ②	200 双	繭生産：JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸 (株) 撚 糸：昭和撚糸工業 (株) 精 練：にしき染色 (株) 製 編：(株) 森下メリヤス工場 染 色：シンドー (株) 縫 製：(株) オオジー
	ニット (ネックウォーマー)	500 枚	繭生産：JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸：碓氷製糸 (株) 撚 糸：昭和撚糸工業 (株) 精 練：にしき染色 (株) 製 編：(株) 森下メリヤス工場 縫 製：神戸生絲 (株)

一般財団法人大日本蚕糸会から

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 平成 29 年 8 月 22 日 (H 29 - 第 2 次) 現在

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物 (振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物 (色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物 (色無地)、胴裏 (灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物 (色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物 (色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物 (色無地、黒紋付)
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物 (色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物 (作家作品)、後染帯地、先染反物 (大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地 (織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物 (帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物 (株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物 (色無地、黒紋付)
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物 (色無地)
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物 (色無地、黒紋付)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物 (色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢 (株))	群馬県高崎市	裏地 (胴裏 (ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物 (作家作品、紋付地)、白生地 (世紀二一、上州絹星・ぐんま 200、新小石丸)、後染帯地 ((冬物・夏物): うるし糸が 5% を超えるもの)、寝衣 (うぶ着、おくるみ)、和装小物 (袱紗)
022	宮階織物 (株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21 世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物 (色無地、訪問着)、先染帯地 (袋帯 (草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物 (有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)、先染反物 (御召類)、後染反物 (色無地)、先染帯地 (袋帯: 金銀糸が 5% を超えるもの)
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品 (マフラー、シャツ、ニット (ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物 (江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地 (表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢)
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多栄子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒組))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚げ)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らifu	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世さね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
128	大門屋	福井県大野市	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）、ショール（牛首紬）、先染反物（飯田紬）
129	（株）加藤萬	東京都中央区	和装小物（帯揚げ、半衿）
130	（株）しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物（小紋）
131	（資）山中商店	名古屋市中区	後染反物（小紋）
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物（小紋）
133	西川産業（株）	東京都中央区	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣（長肌着、短肌着）
136	（株）和想	鳥取県鳥取市	後染反物（小紋）
137	（株）高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー（手織り）
139	（株）丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物（小紋）
140	（株）染織館	徳島県徳島市	後染反物（小紋）
141	（株）京ろまん	奈良県奈良市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
142	五嶋（株）	東京都文京区	帯締
143	（株）わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	（株）布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
145	（有）明石屋	東京都調布市	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井（株）	京都市中京区	風呂敷
147	（株）ナカノ	大分県大分市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	（株）芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	（株）甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ、袱紗
150	（有）さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物（色無地、付下）
151	（株）西松屋	兵庫県姫路市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	（株）西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物（株）	京都市北区	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	（有）石川	群馬県みどり市	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	（株）ふじや	福岡県朝倉市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物（小紋）
159	（株）J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地）、服飾品（スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー）
160	（株）マルシバ	東京都中央区	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）、ネクタイ
161	（株）みつわ	大阪府大東市	後染反物（小紋）
162	福続織物（株）	福岡市西区	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）
163	（株）大谷屋	新潟市中央区	白生地（表地）

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品(布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))、ニット(靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ロープ 鷹	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め))、裏地(紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮(きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
219	Noble Silk (株)	東京都中央区	ニット (インナー、パンツ、ひざ掛け、ジャケット)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)

平成 29 年度貞明皇后研究助成採択一覧（11 件）

貞明皇后研究助成とは？

本会は、蚕糸絹に関する科学技術の研究及び発明並びにその応用を助長し、蚕糸絹文化の継承と蚕糸絹業の改良発達に寄与することを目的として、本会の総裁であられた貞明皇后の御名を冠した研究助成を毎年度行っています。

今年度は、下記の 11 課題について採択をしました。（助成総額 16,000 千円）

研究題目 及び 研究概要（申請時）	研究代表者	助成金額
① ゲノム編集技術で病気に強いカイコを作る—BT 菌完全抵抗性カイコ作出の試み	農業・食品産業技術総合研究機構 ユニット長 渡部 賢司	1,389 千円
遺伝子組換え技術により光るシルクに代表される高機能シルク開発が実用化段階に進みつつあり、日本の養蚕業の復興につながると期待されている。農家レベルで蚕を飼育する場合、蚕病の発生リスクが懸念される。近年、卒倒病などの一部の蚕病に対する抵抗性に関与する遺伝子が同定されてきた。このような遺伝子を改変すれば、病気に強いカイコを人為的に作出できると考えられる。本研究では、BT 菌が産生する殺虫性毒素の受容体遺伝子をゲノム編集技術で改変することで、BT 菌に完全抵抗性を示すカイコの作出を目指す。		
② 高温耐性を有する蚕品種の育成と高温期における養蚕技術の開発	農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員 岡田 英二	1,500 千円
我が国では、夏季における猛暑が続き、繭生産量が減少したり病気が発生したりするなどの問題が起きている。一般的に 2 化性又は 1 化性のカイコは、高温に弱く、高温にさらされると様々な障害が起きることが知られている。一方、高温耐性があるとされている熱帯種は、繭層が軽いなどの問題がある。そこで、本研究では、高温耐性のある大造と、量的形質に優れる日 01 号を材料に、染色体置換系統や次世代シーケンサーを用い高温耐性に関連したゲノム領域を特定し、マーカーを策定することで高温耐性育種の基盤を作る。		
③ 組換えシルクを用いた複合酵素系バイオリアクターの開発	農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員 石橋 純	2,000 千円
組換えカイコを用いてシルクに機能性タンパク質を固定化する技術を用いて、複合酵素系バイオリアクターの開発を行う。シルクに微生物では発現が困難なシロアリのセルロース分解酵素群を固定化し、さらに固定化した酵素反応が効率よく行えるシルク担体の加工技術を開発し、バイオエタノール生産などに利用可能なセルロース糖化反応を一つのリアクターで行える技術を開発する。本研究により開発される複合酵素系バイオリアクターは工業的に幅広い利用が可能であり、新たなシルク産業の発展が期待される。		

④ 江戸時代の糸により近い蚕品種によるブランド性の高い「上田柳条」の開発	株式会社秋櫻舎 代表取締役 中谷 比佐子	1,083 千円
江戸時代までの和服地は、着心地に優れている。本研究は、江戸時代の織物「上田柳条（うえだじま）」の見本を参考に、1年目に4種類の養蚕をした結果、C5・C6×青熟を選択し2年目の研究に入る。本年は、製糸～製織し、着物に仕立て、着心地とドレープ性、セリシンの活用を研究し、ブランド性の高い新たな「平成上田柳条」を開発する。それにより蚕都と呼ばれた上田地域の蚕業振興に貢献することを目的とする。		
⑤ 広食性蚕品種の短期間育成を実現するDNAマーカーの開発	東京大学 助教 木内 隆史	2,000 千円
広食性蚕品種は桑葉粉末含量が少ない低コスト人工飼料による繭の低コスト生産を可能とする。しかし、広食性蚕品種の育成には多大な労力と時間を要する。本研究では、この問題を解決するため、広食性蚕系統「沢J」の食性異常の原因となる遺伝子の候補を遺伝学的に絞り込む。さらに候補遺伝子の中からゲノム情報と遺伝子機能解析により原因遺伝子を同定する。そして、同定した遺伝子をもとに広食性DNAマーカーを開発し、広食性蚕品種を短期間で育成する方法を提案する。		
⑥ 奄美大島に生息する天蚕の育成とその製品開発に関する研究	東京農工大学 准教授 横山 岳	1,538 千円
奄美大島には本土の天蚕とは異なった天蚕（ <i>Antheraea yamamai yoshimotoi</i> ）が生息しており、かつてはその手紬糸を用いた紬が織られていたが、現在はその飼育法や技法はまったく途絶えている。また、奄美大島の天蚕の生態、分類については不明な点が多く、未利用の資源となっている。本研究では奄美大島に生息する天蚕の分類学的解析、生態の解明、飼育から製品作成までの過程の検討を行い、奄美大島での天蚕飼育と織物製品により奄美天蚕紬等の地域ブランド化を計る。		
⑦ フィブロインを用いた実験教材の開発	大分工業高等専門学校 准教授 二宮 純子	1,337 千円
申請者らは不溶性フィブロイン膜に固定化した発光細菌を用いた微生物実験を考案し、公開実験などでフィブロインの機能性について紹介をしてきた。しかし、「実際に蚕または繭をみたことがある」と答えた小中学生は1割にも満たなかった。（平成26年度、科学の祭典（大分）より）本研究では、繭（生糸、絹布を含む）からフィブロインを精製し、蚕糸の多様な用途やその高機能性について理解を深めることができる体験型学習教材の開発を試み、公開講座で実施・検証を行う。		
⑧ 国産シルクを活用した新シルクデニット糸に関する研究開発	福島県ハイテクプラザ福島技術支援センター 専門研究員 東瀬 慎	1,020 千円
従来、絹糸に伸縮性、嵩高性を付与する加工方法は様々提案されているが、個々に課題があり、新たなシルク加工糸が市場から広く切望されている。本事業では、シルク本来の素材感と風合いを最大限に引き出す、新シルクデニット糸製造に関する基盤技術確立し、かつ従来の精練技術の抱える課題を解決した蚕糸科学研究所の酸精練技術、及び蚕業技術研究所が保有する国産蚕品種を複合化することで、市場優位性のある高付加価値な新シルクデニット素材の開発を目的とする。		

⑨ 養蚕飼育における作業負担の軽減技術 開発	群馬県蚕糸技術センター 独立研究員 清水 健二	1,500 千円
養蚕農家の高齢化と後継者不足が続いている中、富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録を契機に蚕や絹への関心度が高まり、養蚕への新規参入に関する相談、問い合わせが多くなった。しかし、蚕の飼育資材の多くが製造・販売中止となり、現在市販されていない状況となっている。そこで、市場流通している資材を使って飼育台や条払い機等を試作し、これを利用した一連の飼育技術を開発する。さらに、アシストスーツ等の軽労効果を検証して、年齢や性別など体力差に関係なく養蚕に取り組める環境を整える。		
⑩ 単為発生系統を用いた組換えカイコの 効率的な作出システムの開発	農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員 内野 恵郎	2,000 千円
バイオ医薬品の研究開発では生産物の品質保全に加え、培養細胞等の生産源を凍結技術を用いて安定して保存することが求められる。カイコでは凍結卵巣から個体を再生する技術が開発されているが、凍結卵巣からの個体の再生効率が低いことが課題である。本研究は、組換えカイコの凍結卵巣から個体を再生する効率を最大限に高めるため、高い単為発生能を有する系統を用いて組換えカイコを作出する系を開発する。		
⑪ 国産シルクによる弦楽器 (ストリングラフィ) 用絹撚糸の開発	スタジオイブ 代表 水嶋 一江	633 千円
国産シルクによる弦楽器「ストリングラフィ」用絹撚糸の開発を目的とする。1992 年に水嶋一江によって考案されたストリングラフィは、絹糸と紙コップを主材料とする日本オリジナルの楽器である。これまでは市販の縫い糸、編み糸を転用して創作・演奏活動を行ってきたが、以下3つの理由から国産シルクによる専用撚糸の開発を目指している。①音質の向上、②真の意味での日本オリジナルの楽器を製作するため、国産シルクの可能性を追求したい。		

貞明皇后研究助成の応募方法等の詳細は、本会ホームページの「貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成について」を参照してください。

■次回 平成 30 年度 貞明皇后研究助成 年間スケジュール (予定)

募集期間	平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日
選考	平成 30 年 4 月中旬 蚕糸褒賞等選考委員会にて選考
助成決定の通知	平成 30 年 5 月上旬
研究助成実施期間	平成 30 年 5 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日
助成金の支払い	平成 30 年 5 月下旬
実績報告書の提出締切	平成 31 年 3 月 1 日
助成金額の確定作業	平成 31 年 3 月上旬～中旬
研究成果報告	平成 31 年 4 月中旬 蚕糸褒賞等選考委員会にて報告

一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌

No. 55 (H29.7.1 ~ H29.9.30)

月日	活 動 内 容 等
7/10	シルクのまちづくり市区町村協議会平成 29 年度第 1 回幹事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
7/12	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の平成 29 年度試作品審査会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
7/13 ~ 14	「日本の絹」マークの利用等に関する現地調査 (新潟県)
7/19 ~ 21	伊勢神宮の御料生糸に関する打合せ (東京都有楽町 蚕糸会館、群馬県、山形県)
7/23 ~ 25	駒ヶ根シルクミュージアムの特別展「皇室の御養蚕と信州」の見学、 信州ブランド繭・蚕用途開発協議会委員会への出席等 (長野県)
7/26	「日本の絹」マークの利用等に関する現地調査 (群馬県)
7/26 ~ 27	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (福島県)
8/ 2 ~ 3	子ども霞が関見学デーへの協力 (東京都霞が関 農林水産省)
8/ 3 ~ 4	「日本の絹」マークの利用等に関する現地調査 (滋賀県、京都府)
8/10 ~ 11	伊勢神宮の御料生糸に関する打合せ、 西陣織会館での「宝絹展」の打合せ (京都府)
8/21 ~ 25	「夏休み子ども教室 [カイコに会いに行こう]」の開催 (東京都有楽町 ジャパンシルクセンター)
8/22	純国産絹マーク審査委員会 (平成 29 年度第 2 次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
8/25	伊勢神宮の御料生糸に関する打合せ (群馬県)
8/28 ~ 29	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (山梨県)
8/28 ~ 29	蚕糸絹文化振興対策事業に関する現地調査 (岩手県、宮城県)
9/ 2 ~ 6	純国産宝絹 takaraginu 展 in 西陣織会館の開催 (京都府)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departments/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011400979>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	68
(2) 養蚕農家数の推移	69
(3) 繭生産数量の推移	70
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	71
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	72
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	73
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	74
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	75
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	76
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	77
(11) 製糸工場の原料繭需給	78
(12) 製糸工場の操業状況	79
(13) 生糸在庫数量の内訳	80
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	81
(15) 生糸の原産国別輸入数量	82
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	83
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	84
(18) 絹織物生産数量	85
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	86
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	87

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	88
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	89
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	90
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	91
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	92
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	94
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	95
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	96
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2015年）	97
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	98

－資料・国内－

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	34	—	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	7	30	—	2,316
2016 (28)	349	130	372	0.3	7	26	—	2,243
前年比(%) 2016/2015	94.8	96.3	101.5	75.0	100.0	86.7	—	96.8

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。
 (注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のもの
 である。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
前年比(%) 2016/2015		94.8	96.0	94.6	99.0

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

年 次 Year	項 目 Item	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
前年比 (%) 2016/2015		95.9	97.5	99.8	92.0	101.1	101.1	105.5	92.9
2016年 構成比 (%)		100.0	36.5	25.0	38.6				

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.

National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.

The Dainippon Silk Foundation（2009年～）

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	27年	28年	前年対比	27年	28年	前年対比	27年	28年	前年対比	27年	28年	前年対比
青森県	-	1	-	-	1	-	1	2	200.0	1	2	200.0
岩手県	11	14	127.3	14	11	78.6	15	18	120.0	18	18	100.0
宮城県	11	9	81.8	10	10	100.0	13	13	100.0	16	15	93.8
山形県	7	6	85.7	5	5	100.0	8	7	87.5	10	8	80.0
福島県	34	34	100.0	36	36	100.0	40	37	92.5	44	41	93.2
茨城県	13	13	100.0	11	10	90.9	11	12	109.1	13	13	100.0
栃木県	22	23	104.5	14	16	114.3	23	23	100.0	23	23	100.0
群馬県	122	111	91.0	80	71	88.8	119	114	95.8	133	122	91.7
埼玉県	29	28	96.6	21	19	90.5	27	26	96.3	31	29	93.5
千葉県	6	6	100.0	5	4	80.0	6	6	100.0	6	7	116.7
東京都	4	4	100.0	-	-	-	4	3	75.0	5	4	80.0
新潟県	7	8	114.3	-	-	-	-	-	-	7	8	114.3
福井県	1	1	100.0	1	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	7	10	142.9	5	4	80.0	8	10	125.0	9	11	122.2
長野県	14	15	107.1	9	12	133.3	15	14	93.3	16	18	112.5
岐阜県	8	7	87.5	-	-	-	5	5	100.0	8	7	87.5
愛知県	2	2	100.0	-	-	-	1	1	100.0	2	2	100.0
京都府	3	2	66.7	-	-	-	3	2	66.7	3	2	66.7
兵庫県	1	1	100.0	1	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	11	10	90.9	5	6	120.0	6	10	166.7	11	11	100.0
高知県	2	1	50.0	1	-	-	2	-	-	2	1	50.0
熊本県	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
宮崎県	1	1	100.0	-	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	4	133.3	3	4	133.3	3	4	133.3
全国計	323	310	96.0	221	209	94.6	313	310	99.0	368	349	94.8

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年間		
	27年	28年	前年比	27年	28年	前年比	27年	28年	前年比	27年	28年	前年比
青森県	-	65.0	-	-	73.7	-	92.4	113.2	122.5%	92.4	251.9	272.6%
岩手県	1,470.0	1,395.1	94.9%	1,936.6	1,575.4	81.3%	1,926.8	1,969.5	102.2%	5,333.4	4,940.0	92.6%
宮城県	1,472.6	1,560.5	106.0%	1,880.1	1,367.4	72.7%	2,191.9	1,589.7	72.5%	5,544.6	4,517.6	81.5%
山形県	1,314.5	1,156.1	87.9%	809.2	608.6	75.2%	1,483.4	1,534.9	103.5%	3,607.1	3,299.6	91.5%
福島県	6,417.0	6,191.7	96.5%	5,598.4	7,105.0	126.9%	9,184.6	9,065.5	98.7%	21,200.0	22,362.2	105.5%
茨城県	2,147.4	2,068.9	96.3%	1,405.0	1,241.5	88.4%	1,858.3	1,840.2	99.0%	5,410.7	5,150.6	95.2%
栃木県	7,919.8	6,657.7	84.1%	3,240.3	3,959.0	122.2%	9,364.9	8,305.0	88.7%	20,525.0	18,921.7	92.2%
群馬県	16,881.6	17,773.8	105.3%	11,715.2	11,151.3	95.2%	18,863.3	16,902.9	89.6%	47,460.1	45,828.0	96.6%
埼玉県	3,278.6	3,110.6	94.9%	2,271.8	2,132.2	93.9%	3,085.0	3,039.1	98.5%	8,635.4	8,281.9	95.9%
千葉県	1,105.6	1,084.0	98.0%	452.1	484.7	107.2%	931.0	625.0	67.1%	2,488.7	2,193.7	88.1%
東京都	212.3	219.6	103.4%	-	-	-	168.5	75.4	44.7%	380.8	295.0	77.5%
山梨県	1,904.8	2,115.6	111.1%	754.9	704.0	93.3%	1,773.4	1,618.3	91.3%	4,433.1	4,437.9	100.1%
長野県	1,572.7	1,624.3	103.3%	1,039.4	950.9	91.5%	1,818.1	1,677.9	92.3%	4,430.2	4,253.1	96.0%
新潟県	113.5	108.6	95.7%	-	-	-	-	-	-	113.5	108.6	95.7%
福井県	54.1	59.1	109.2%	26.8	-	-	41.6	30.0	72.1%	122.5	89.1	72.7%
岐阜県	534.3	574.1	107.4%	-	-	-	457.0	419.5	91.8%	991.3	993.6	100.2%
愛知県	75.2	87.9	116.9%	-	-	-	35.0	25.5	72.9%	110.2	113.4	102.9%
兵庫県	45.0	68.8	152.9%	40.3	-	-	44.7	64.5	144.3%	130.0	133.3	102.5%
京都府	74.3	36.7	49.4%	-	-	-	59.3	26.8	45.2%	133.6	63.5	47.5%
愛媛県	1,591.7	1,263.9	79.4%	1,140.3	955.1	83.8%	864.9	1,033.7	119.5%	3,596.9	3,252.7	90.4%
高知県	103.4	13.9	13.4%	59.7	-	-	64.9	-	-	228.0	13.9	6.1%
熊本県	101.9	-	-	-	-	-	-	-	-	101.9	-	-
宮崎県	68.5	65.2	95.2%	-	-	-	58.7	35.6	60.6%	127.2	100.8	79.2%
鹿児島県	84.0	47.0	56.0%	93.2	105.0	112.7%	77.5	97.0	125.2%	254.7	249.0	97.8%
全国計	48,542.8	47,348.1	97.5%	32,463.3	32,413.8	99.8%	54,445.1	50,089.2	92.0%	135,451.2	129,851.1	95.9%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item \ Year	2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)	
	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号	2,450	21.9	3,278	33.4	2,899	30.0	2,800	31.5
錦秋 × 鐘和	3,221	28.8	1,754	17.9	1,946	20.1	1,606	18.1
春嶺 × 鐘月	1,871	16.7	1,116	11.4	1,242	12.8	1,100	12.4
ぐんま200	1,125	10.1	1,104	11.3	1,019	10.5	949	10.7
春嶺1号 × 鐘月1号	380	3.4	872	8.9	780	8.1	679	7.6
松岡 × 姫丸	547	4.9	350	3.6	300	3.1	445	5.0
新小石 × 丸	317	2.8	129	1.3	107	1.1	178	2.0
かいらん × あけぼの	166	1.5	140	1.4	136	1.4	133	1.5
ぐんま × ま	47	0.4	126	1.3	95	1.0	101	1.1
小石 × 丸	76	0.7	134	1.4	180	1.9	96	1.1
小良小石 × 丸	48	0.4	52	0.5	93	1.0	82	0.9
プラチナボイ	76	0.7	128	1.3	58	0.6	66	0.7
白んま黄	92	0.8	31	0.3	26	0.3	60	0.7
ぐんま細1	64	0.6	103	1.1	116	1.2	59	0.7
白繭 × 東海	85	0.8	92	0.9	39	0.4	59	0.7
朝日 × 黄ど	67	0.6	58	0.6	110	1.1	58	0.7
大寶 × 小	63	0.6	23	0.2	41	0.4	55	0.6
いりろ × 11	111	1.0	76	0.8	134	1.4	52	0.6
玉技 × 平	17	0.2	20	0.2	39	0.4	49	0.6
蚕太 × 長	53	0.5	42	0.4	43	0.4	44	0.5
緑平 × 2	49	0.4	8	0.1	43	0.4	42	0.5
秋繭 × 竜	41	0.4	18	0.2	22	0.2	39	0.4
上光 × 絹			22	0.2	11	0.1	26	0.3
世州 × 二							26	0.3
奄紀 × 黄	71	0.6	23	0.2	78	0.8	17	0.2
黄美			4	0.0	4	0.0	15	0.2
N5・N6 × TY40	42	0.4	20	0.2	32	0.3	12	0.1
山東3眠 × C5・507			4	0.0	8	0.1	12	0.1
Ok・ON × nBL	7	0.1	33	0.3	33	0.3	10	0.1
新青 × 支21					5	0.1	5	0.1
極熟 × 1	6	0.1	5	0.1	8	0.1	2	0.0
緑繭 × 1	21	0.2	16	0.2	11	0.1		
支21 × 四川3眠	33	0.3			6	0.1		
Nk × Cu1	4	0.0	4	0.0	4	0.0		
白繭 × 2			10	0.1				
極細 × 3			8	0.1				
玉繭 × 3			3	0.0				
鷹 × 山			2	0.0				
支108号 × 青	9	0.1						
山東3眠 × C5・505	8	0.1						
青 × 中515号	4	0.0						
又 × 中515号	2	0.0						
合計	1	0.0						
Total	11,174	100.0	9,808	100.0	9,668	100.0	8,887	100.0

資料: (一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 — 1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0	448	1,543	1,238	47	371	391
9	23	479	0	557	1,488	1,152	30	364	380
10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
12	27	380	0	504	1,410	983	17	407	434
2016 — 1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
8	26	589	0	599	1,448	967	9	383	332
9	30	520	0	620	1,378	946	5	374	426
10	20	602	0	572	1,428	862	17	414	415
11	28	664	0	700	1,420	1,161	22	493	407
12	26	596	0	636	1,406	1,035	5	394	416
2017 — 1	23	552	0	538	1,443	1,314	7	522	249
2	23	509	0	472	1,503	535	35	203	454
3	23	805	1	694	1,636	1,376	21	456	469
4	26	0	0	124	1,538	1,255	23	371	437
5	36	997	0	1,011	1,560	1,389	14	466	411
6	26	735	0	778	1,543	1,285	17	499	410
7	24	437	0	493	1,511	960	18	388	441

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査 (～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会 (2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会 (2012.12～)。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association (2012.12～)。

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan.1996 until Mar.2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}。
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
2008		1,588	4	289	421	368	503
2009		1,152	1	243	392	251	262
2010		882	1	179	316	86	300
2011		731	1	188	249	89	204
2012		506	0	109	202	73	82
2013		409	0	109	105	57	138
2014		446	0	114	116	62	155
2015		378	0	146	86	36	110
2016		317	0	98	103	38	78
2014 -	1	30	—	9	3	2	16
	2	39	—	10	4	0	25
	3	35	—	14	6	6	9
	4	42	—	7	11	7	17
	5	41	—	9	17	5	10
	6	45	—	13	12	5	15
	7	39	—	13	8	8	10
	8	24	—	1	15	0	8
	9	32	—	9	10	1	12
	10	43	—	10	8	11	14
	11	34	—	9	12	9	4
	12	43	—	10	10	8	15
2015 -	1	35	—	10	12	6	7
	2	44	—	6	12	12	14
	3	37	—	17	11	4	5
	4	38	—	16	2	8	12
	5	29	—	13	4	0	12
	6	37	—	15	6	2	14
	7	30	—	13	6	0	11
	8	25	—	8	9	0	8
	9	23	—	14	3	1	5
	10	28	—	8	12	0	8
	11	25	—	12	5	2	6
	12	27	—	14	4	1	8
2016 -	1	23	—	7	11	0	5
	2	33	—	10	7	4	12
	3	38	—	9	12	11	6
	4	26	—	6	12	1	7
	5	24	—	3	7	2	12
	6	17	—	11	3	0	3
	7	26	—	10	10	0	6
	8	26	—	7	9	6	4
	9	30	—	7	12	1	10
	10	20	—	8	4	3	5
	11	28	—	10	11	3	4
	12	26	—	10	5	7	4
2017 -	1	23	—	5	8	4	6
	2	23	—	13	3	0	7
	3	23	—	6	12	0	5
	4	26	—	9	10	0	7
	5	36	—	9	7	10	10
	6	26	—	8	6	4	8
	7	24	—	10	2	3	9

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
		期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import						輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③	
				計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second		計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second		
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	13	0	0	12	5	163	45
2016	239	45	0	194	7	12	14	161	194	15	0	0	9	6	179	45
前年比(%) 2016/2015	108	100	—	110	117	86	127	111	110	115	—	—	75	120	110	100

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注）2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source："Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	2.2	91.7	1.4
	女子用外衣類 Women's upper garments		38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	73.9	112.7	46.0
	うちブラウス Blouse of the inside		2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	1.0	83.3	0.6
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	1.9	146.2	1.2
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	20.3	108.0	12.6
	ハンカチ Handkerchief		0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	66.7	0.1
	ショール、スカーフ類 Shawl,scarves		2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	1.5	78.9	0.9
	ネクタイ類 Ties		18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	7.9	101.3	4.9
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	23.2	129.6	14.5
その他の洋装類 Other western clothes			21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	15.4	96.9	9.6
洋装類計 Western clothes subtotal			115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	146.5	111.1	91.3
和装類計 Japanese clothes subtotal			14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	11.5	111.7	7.2
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessoriys of the inside			12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	10.1	117.4	6.3
その他 Others			2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	2.5	96.2	1.6
合 計 Total			133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	160.5	110.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note :Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2007		548	581	505
2008		393	518	378
2009		308	385	313
2010		240	299	263
2011		189	162	237
2012		185	209	183
2013		142	137	188
2014		128	158	158
2015		116	159	115
2016		115	110	120
2014 —	1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174
	12	0	16	158
2015 —	1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124
	12	0	9	115
2016 —	1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97
	8	10	8	99
	9	7	10	96
	10	39	8	127
	11	12	10	129
	12	0	9	120
2017 —	1	1	8	113
	2	0	9	104
	3	0	8	96
	4	1	9	88
	5	0	12	76
	6	22	9	89
	7	25	8	106

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。
中央蚕糸協会(2012. 12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。
3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～2012. 11).
Central Raw Silk Association (2012. 12～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
	運転可能 Operable		運 転 Operating				
暦 年 Calendar Year							
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	58
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	7	110	29	26	267	55
2014 -	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
2015 -	1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60
	8	6	110	26	24	20	48
	9	6	110	23	21	23	48
	10	6	110	25	23	23	53
	11	7	110	27	25	22	53
	12	7	110	27	25	23	53
2016 -	1	7	110	25	23	19	53
	2	6	110	34	31	22	57
	3	6	110	36	33	23	57
	4	7	110	31	28	23	58
	5	6	110	21	19	21	50
	6	7	110	20	19	23	49
	7	8	110	31	28	23	63
	8	7	110	31	28	21	59
	9	7	110	30	27	23	58
	10	8	110	30	27	24	61
	11	8	110	29	26	22	61
	12	8	110	30	27	23	55
2017 -	1	7	110	33	30	19	51
	2	7	110	31	28	22	51
	3	6	110	19	17	23	42
	4	6	110	21	19	23	48
	5	7	110	33	30	23	58
	6	8	110	32	29	23	62
	7	7	110	21	19	24	52

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。
中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012. 12～)。

備 考 : 1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。
2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。
3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).
Central Raw Silk Association(2012. 12～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	0
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016	1,406	1,406	130	—	1,276				
2015 — 1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6	1,535	1,535	88	—	1,447				
7	1,499	1,499	89	—	1,410				
8	1,543	1,543	87	—	1,456				
9	1,488	1,488	89	—	1,399				
10	1,461	1,461	87	—	1,374				
11	1,507	1,507	79	—	1,428				
12	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016 — 1	1,343	1,343	93	—	1,251				
2	1,364	1,364	97	—	1,267				
3	1,637	1,637	119	—	1,518				
4	1,249	1,249	116	—	1,133				
5	1,470	1,470	114	—	1,356				
6	1,394	1,394	111	—	1,283				
7	1,432	1,432	107	—	1,325				
8	1,448	1,448	111	—	1,337				
9	1,378	1,378	118	—	1,260				
10	1,428	1,428	110	—	1,318				
11	1,420	1,420	123	—	1,297				
12	1,406	1,406	130	—	1,276				
2017 — 1	1,443	1,448	130	—	1,318				
2	1,503	1,503	130	—	1,373				
3	1,636	1,636	126	—	1,510				
4	1,538	1,538	112	—	1,426				
5	1,560	1,560	128	—	1,432				
6	1,543	1,543	116	—	1,427				
7	1,511	1,511	108	—	1,403				

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成29年(2017)		平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	28年/27年 2016/2015 (%)
		(7月) Jul.	(累計) Accumulat ed Total								
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	437	4,035	12,207	9,323	10,032	9,332	8,235	6,479	6,546	101.0
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	960	8,113	16,306	17,526	16,179	15,844	14,820	14,051	12,094	86.1
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	0	34	82	62	81	169	48	33	41	124.2
繭 Cocoon	kg	0	2,000	13,158	4,050	6,250	8,300	10,200	6,800	7,000	102.9
くず繭 Waste Cocoon	kg	384	5,244	9,395	10,885	6,457	13,314	11,728	8,860	4,602	51.9
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	9,132	42,331	134,852	98,732	107,023	92,024	101,655	89,984	53,737	59.7
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	9,516	47,575	144,247	109,617	107,022	105,338	113,383	98,844	58,339	59.0
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	25,108	175,707	451,219	394,920	482,523	438,786	453,450	343,101	331,100	96.5
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	7,722	72,363	104,374	118,404	140,188	152,749	141,707	148,796	121,788	81.8
絹織物 Silk Fabrics	m ²	388,352	2,906,953	8,930,391	8,422,094	7,218,094	6,661,585	6,097,501	5,468,177	5,206,131	95.2

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	-
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	-
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
6	628 (23)	572 (23)	47	10	-	-
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	-	2	-
8	467 (6)	417 (6)	50	-	-	-
9	479	364	115	-	-	-
10	462 (6)	366 (6)	96	-	-	-
11	530 (2)	444	86 (2)	-	-	-
12	380	315	65	-	-	-
2016 - 1	423 (10)	299 (10)	124	-	-	-
2	595	493	102 (3)	-	-	-
3	636	596	40	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	726 (15)	557 (15)	167	-	2	-
6	555 (10)	503 (5)	52 (5)	-	-	-
7	642 (7)	523 (7)	118	1	-	-
8	589	499	88	2	-	-
9	520 (5)	447 (5)	73	-	-	-
10	602 (2)	442 (2)	160	-	-	-
11	664	599 (10)	64	-	-	-
12	596	421	154	21	-	-
2017 - 1	552 (7)	453 (7)	99	-	-	-
2	509 (8)	443 (8)	66	-	-	-
3	805	636	137	30	2	-
4	-	-	-	-	-	-
5	997 (9)	708 (8)	289 (0)	-	-	-
6	735 (5)	591 (5)	117	27	-	-
7	437 (1)	321	85 (1)	32	-	-

資 料：財務省関税局調査

備 考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015		14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	—	7,289	4,074	16	0	711	4
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
	5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
	6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
	7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
	8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
	9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
	10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
	11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
	12	983	—	601	339	2	—	41	—
2016 —	1	1,101	—	564	476	—	—	62	—
	2	797	—	468	292	0	0	35	2
	3	911	—	579	289	—	—	42	—
	4	1,047	—	659	357	—	—	30	1
	5	900	—	538	255	4	—	102	—
	6	1,295	—	802	442	—	—	51	—
	7	1,072	—	573	423	—	—	76	—
	8	967	—	566	332	—	—	69	—
	9	946	—	598	294	2	—	51	—
	10	862	—	548	250	—	—	62	2
	11	1,161	—	783	295	7	0	76	—
	12	1,035	—	610	368	1	—	55	—
2017 —	1	1,314	—	931	326	2	—	54	—
	2	535	—	199	307	3	—	26	—
	3	1,376	—	725	540	0	—	111	—
	4	1,255	—	630	595	—	—	30	—
	5	1,389	—	844	423	—	0	121	—
	6	1,285	—	821	397	—	—	67	—
	7	960	—	493	426	0	—	40	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/K g

Unit: bale of 60kg, yen/kg

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2015 - 1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821
2016 - 1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422
3	596	5,838	40	5,973	579	5,969	42	7,248	289	6,056
4	-	-	-	-	659	5,668	30	6,711	357	6,090
5	542	5,541	167	6,027	538	5,636	102	6,759	255	5,730
6	498	5,497	47	5,933	802	5,641	51	6,361	442	5,777
7	516	5,332	118	5,566	573	5,360	76	6,157	423	5,419
8	499	5,370	88	5,194	566	5,549	69	6,104	332	5,340
9	442	5,217	73	5,565	598	5,395	51	6,087	294	5,636
10	440	5,276	160	6,069	548	5,420	62	6,122	250	5,883
11	599	5,575	64	5,460	783	5,716	76	6,425	295	6,101
12	421	6,156	154	6,884	610	6,382	55	7,049	368	6,480
2017 - 1	446	6,355	99	6,513	931	6,657	54	7,305	326	6,623
2	435	5,944	66	6,352	199	6,385	26	7,265	307	6,541
3	636	6,287	137	6,509	725	6,585	111	7,301	540	6,641
4	-	-	-	-	630	6,213	30	6,987	595	6,115
5	700	6,219	288	6,363	844	6,551	121	7,397	423	6,382
6	586	6,234	117	6,654	821	6,398	67	7,331	397	6,364
7	321	6,457	84	6,742	493	6,743	40	7,527	426	6,781

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit：1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2014 — 1	226	120	67	3	50	51	23	28	55
2	236	121	68	3	50	57	25	32	58
3	240	125	75	4	46	57	26	31	58
4	244	125	73	4	48	61	29	32	58
5	249	134	70	4	61	57	24	33	57
6	252	137	72	4	61	57	25	32	58
7	238	125	67	3	55	55	24	31	57
8	195	104	63	3	38	47	20	27	43
9	207	111	66	3	43	53	24	29	43
10	222	112	63	3	45	58	27	31	52
11	212	112	61	3	48	56	26	31	44
12	214	113	57	3	53	56	26	30	45
2015 — 1	191	98	60	3	36	52	22	30	41
2	182	86	57	2	27	53	25	29	43
3	192	94	60	3	31	57	27	30	41
4	208	110	57	2	51	58	29	29	40
5	182	99	52	3	43	50	22	28	33
6	217	121	57	3	61	54	24	30	42
7	206	111	53	3	54	55	23	33	40
8	161	84	54	3	28	44	20	24	32
9	183	99	53	3	43	49	23	26	36
10	198	105	56	3	45	54	24	30	40
11	193	106	52	3	52	52	23	29	35
12	200	115	52	3	59	50	21	29	36
2016 — 1	172	94	54	3	37	44	18	26	34
2	173	85	53	3	30	51	24	28	37
3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
8	160	81	48	3	30	45	21	24	35
9	171	87	49	3	35	49	22	27	35
10	187	98	50	3	45	52	23	29	37
11	190	104	52	3	49	50	23	27	36
12	188	106	50	3	53	47	21	25	35
2017 — 1	161	86	49	4	38	43	19	24	32
2	171	85	52	4	29	49	24	25	37
3	186	96	56	4	36	51	23	28	39
4	187	99	53	4	42	51	24	27	37
5	182	100	51	4	45	50	22	27	33
6	205	113	53	4	55	54	25	29	38
7	182	102	56	5	41	48	22	25	32

資 料：（一社）日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks：Spun and mixed fabrics included.

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,313	84.6	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	97.0	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2014 — 1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 — 1	191	84.5	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	182	77.1	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	192	80.0	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	208	85.2	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	182	73.1	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	217	86.1	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	206	86.6	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	183	88.4	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	193	91.0	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12	200	93.5	26,428	81.0	2,786	68.8	43,936	95.8
2016 — 1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8	32,724	93.8
9	171	93.4	26,624	93.3	3,175	97.1	36,533	83.1
10	187	94.4	26,625	92.6	3,356	119.5	38,158	86.1
11	190	98.4	24,839	82.8	3,244	103.4	39,561	104.3
12	188	94.0	28,187	106.7	2,556	91.7	38,780	88.3
2017 — 1	161	93.6	19,191	87.2	2,721	100.5	40,302	103.3
2	171	99.4	25,321	89.5	2,680	77.0	37,708	85.0
3	186	97.9	23,533	92.2	3,134	95.4	42,381	86.0
4	187	87.4	28,368	97.2	3,153	99.6	42,281	89.8
5	182	89.2	22,784	94.7	3,158	97.8	43,917	101.6
6	205	96.2	28,370	106.8	3,096	91.2	43,127	99.7
7	182	100.6	26,213	97.8	3,217	101.5	35,048	97.0
8			19,448	90.0	2,652	80.3		

資 料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備 考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況
Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts &sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2015	287,374	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2016	282,188	▲ 1.8	10,878	▲ 4.3	128	▲ 22.8	4,225	▲ 5.1	2,283	▲ 4.5	1,006	1.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	0.1	11,552	2.6	144	▲ 59.1	4,135	13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4
9	274,309	▲ 0.3	9,269	1.0	288	70.4	3,310	3.5	2,082	▲ 3.3	805	▲ 0.5
10	282,401	▲ 2.1	11,468	▲ 4.3	179	▲ 19.0	4,481	▲ 3.6	2,459	▲ 4.3	1,008	▲ 4.3
11	273,268	▲ 2.5	12,390	▲ 12.2	351	195.0	5,116	▲ 14.1	2,291	▲ 16.6	1,160	▲ 12.4
12	318,254	▲ 4.2	12,099	▲ 15.3	22	▲ 73.2	4,938	▲ 13.9	2,214	▲ 14.0	1,356	▲ 20.3
2016 - 1	280,973	▲ 3.1	12,332	▲ 4.3	42	▲ 77.7	5,401	▲ 8.8	2,374	1.8	1,137	3.2
2	269,774	1.6	8,435	▲ 4.0	63	▲ 46.2	3,755	▲ 3.3	1,495	▲ 12.6	669	9.7
3	300,889	▲ 5.3	11,815	▲ 10.4	129	24.0	5,509	▲ 10.8	1,997	▲ 14.7	752	▲ 7.2
4	298,520	▲ 0.7	11,452	▲ 8.3	130	▲ 16.1	4,232	▲ 11.1	2,486	▲ 1.8	866	▲ 1.7
5	281,827	▲ 1.6	13,167	5.3	317	213.9	4,653	11.0	3,057	2.8	1,151	2.1
6	261,452	▲ 2.7	10,717	▲ 0.2	194	25.2	3,523	▲ 2.2	2,717	▲ 1.2	1,001	1.4
7	278,067	▲ 0.9	10,995	▲ 4.8	149	3.5	3,781	▲ 8.6	2,724	▲ 6.8	1,223	10.9
8	276,338	▲ 5.1	8,024	▲ 10.8	100	▲ 44.1	2,693	▲ 6.8	1,923	▲ 6.6	876	▲ 10.3
9	267,119	▲ 2.6	8,129	▲ 12.3	86	▲ 70.1	2,919	▲ 11.8	1,791	▲ 14.0	752	▲ 6.6
10	281,961	▲ 0.2	11,581	1.0	63	▲ 64.8	4,658	4.0	2,493	1.4	1,021	1.3
11	270,848	▲ 0.9	11,860	▲ 4.3	69	▲ 80.3	4,748	▲ 7.2	2,186	▲ 4.6	1,309	12.8
12	318,488	0.1	12,025	▲ 0.6	189	759.1	4,822	▲ 2.3	2,147	▲ 3.0	1,317	▲ 2.9
2017 - 1	279,249	▲ 0.6	12,730	3.2	88	109.5	5,754	6.5	2,376	0.1	1,071	▲ 5.8
2	260,644	▲ 3.4	8,092	▲ 4.1	239	279.4	3,459	▲ 7.9	1,467	▲ 1.9	594	▲ 11.2
3	297,942	▲ 1.0	12,149	2.8	492	281.4	5,711	3.7	1,908	▲ 4.5	733	▲ 2.5
4	295,929	▲ 0.9	11,639	1.6	131	0.8	4,174	▲ 1.4	2,567	3.3	904	4.4
5	283,056	0.4	11,451	▲ 13.0	142	▲ 55.2	3,933	▲ 15.5	2,670	▲ 12.7	1,079	▲ 6.3
6	268,802	2.8	9,897	▲ 7.7	275	41.8	3,277	▲ 7.0	2,361	▲ 13.1	929	▲ 7.2
7	279,197	0.4	11,687	6.3	588	294.6	3,957	4.7	2,740	0.6	1,249	2.1
8												

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau,MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2010年		2011年		2012年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	53	882	44	731	30	506
中国	China	96,000	1,600,000	104,000	1,733,333	126,000	2,100,000
インド	India	16,360	272,667	18,272	304,533	18,715	311,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	940	15,667	940	15,667
タイ	Thailand	665	11,083	655	10,917	655	10,917
ブラジル	Brazil	770	12,833	558	9,300	440	7,333
ベトナム	Vietnam	460	7,667	448	7,467	448	7,467
イラン	Iran	75	1,250	120	2,000	123	2,050
北朝鮮	North Korea	102	1,700	90	1,500	90	1,500
トルコ	Turkey	18	300	22	367	19	317
インドネシア	Indonesia	20	333	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.2	153	5.9	98	9.0	150
シリア	Syria	0.6	10	0.5	8	0.5	8
主要国の計	Total	115,473	1,924,545	125,175	2,086,254	147,490	2,458,164

区 分		2013年		2014年		2015年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	25	409	27	446	23	378
中国	China	125,000	2,083,333	125,000	2,083,333	122,000	2,033,333
インド	India	19,476	324,600	21,390	356,500	20,474	341,233
ウズベキスタン	Uzbekistan	980	16,333	1,100	18,333	1,200	20,000
タイ	Thailand	680	11,333	692	11,533	698	11,633
ブラジル	Brazil	440	7,333	433	7,217	463	7,717
ベトナム	Vietnam	448	7,467	447	7,450	450	7,500
イラン	Iran	123	2,050	110	1,833	120	2,000
北朝鮮	North Korea	90	1,500	86	1,433	94	1,567
トルコ	Turkey	17	283	11	183	11	183
インドネシア	Indonesia	16	267	10	167	8	133
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	8	133	8	133
シリア	Syria	0.7	12	0.5	8	0.3	5
主要国の計	Total	147,305	2,455,071	149,315	2,488,571	145,549	2,425,816

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)				生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)			
		2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014
山 西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	64	55	65	61
河 北	Hebei								
遼 寧	Liaoning					4,184	2,463	2,310	4,504
江 蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	13,003	19,493	20,949	29,738
浙 江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	5,748	6,688	14,293	15,505
安 徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	5,040	8,139	8,909	9,101
江 西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072		3,021	4,653	6,225
山 東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	3,613	5,452	4,949	3,414
河 南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984			1,972	2,160
湖 北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	437	572	1,007	1,683
湖 南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988				
広 東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	1,183	1,548	1,726	2,312
広 西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	8,312	27,834	35,425	40,645
重 慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	3,811	3,402	3,653	4,730
四 川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	27,742	27,268	29,065	38,096
貴 州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	182	128	234	291
雲 南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	2,108	2,777	2,814	3,433
陝 西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	4,391	4,642	5,067	5,386
甘 粛	Gansu	373	385	364	348				
寧 夏	Ningxia	575	610	826	578				
新 疆	Xinjiang	100	150	100	100				
内 蒙 古	Inner Mongolia								
合 計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	79,817	113,478	137,090	167,284

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
北 京	Beijing																
天 津	Tianjin																
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
内 蒙 古	Inner Mongolia																
遼 寧	Liaoning														0.0	0.0	0.0
吉 林	Jilin																
黒 龍 江	Heilongjiang																
上 海	Shanghai																
江 蘇	Jiangsu	9.0	10.1	11.9	10.7	11.7	10.6	12.3	11.2	9.9	7.9	7.9	7.1	6.8	5.9	5.7	5.0
浙 江	Zhejiang	9.5	11.0	9.9	7.9	8.4	8.5	9.6	9.6	8.2	6.8	6.4	6.5	6.1	5.5	4.7	4.0
安 徽	Anhui	2.5	2.7	2.8	2.6	3.0	3.1	3.6	3.9	3.8	2.9	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	3.0
福 建	Fujian														0.0		
江 西	Jiangxi	0.3	0.5	0.7	0.8	0.8	0.9	1.1	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
山 東	Shandong	5.3	6.9	6.9	6.7	6.6	6.3	7.0	6.8	6.1	5.2	4.2	3.6	3.3	3.1	2.5	2.2
河 南	Henan	1.3	1.5	1.7	1.1	1.4	1.5	1.6	1.8	2.2	2.2	2.1	1.9	1.9	1.8	1.7	1.8
湖 北	Hubei	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7
湖 南	Hunan		0.1	0.1	0.2	0.1									0.0	0.1	0.1
広 東	Guangdong	3.1	4.5	5.3	5.2	5.7	6.5	7.5	8.4	8.4	8.6	9.1	9.6	9.7	10.2	10.5	11.0
広 西	Guangxi	3.0	5.6	7.4	8.7	10.7	14.8	19.7	23.3	22.3	22.5	26.5	29.6	31.6	32.3	34.0	36.1
海 南	Hainan													0.1	0.0	0.1	0.1
重 慶	Chongqing	3.0	3.2	3.4	2.8	2.9	3.1	2.7	2.9	2.4	1.9	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.8
四 川	Sichuan	8.7	9.2	9.3	9.3	9.7	9.8	9.8	10.9	10.6	10.7	11.1	11.2	11.4	11.3	11.3	11.2
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1			0.0	0.0	0.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.9	1.1	1.3	2.6	1.9	2.4	3.0	2.9	2.7	2.5	2.9	2.6	2.8	3.2	3.1
チベット	Tibet																
陝 西	Shaanxi	1.5	1.6	1.7	1.9	2.1	2.3	2.6	3.0	3.3	2.6	2.5	3.5	1.9	1.3	1.2	1.2
甘 肅	Gansu														0.0	0.0	0.0
青 海	Qinghai																
寧 夏	Ningxia																
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.2	0.1												
合 計	Total	50.1	60.2	64.5	61.1	67.7	71.3	82.0	87.9	83.1	76.1	80.0	83.6	83.1	81.7	81.9	82.4

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

Source: "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2017年5月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		124.80 ~ 145.00	1,997 ~ 2,320
2	玉繭(double cocoon)		109.40 ~ 117.30	1,750 ~ 1,877
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	96.44 ~ 105.84	1,543 ~ 1,693
4	ビス(bisu)		92.20 ~ 103.02	1,475 ~ 1,648
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	390.50 ~ 393.68	6,248 ~ 6,299
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	392.10 ~ 394.50	6,274 ~ 6,312
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	384.60 ~ 387.60	6,154 ~ 6,202
8	玉糸(doupion silk)	110d	406.00 ~ 422.30	6,496 ~ 6,757
9	土糸(native silk)	110d	396.00 ~ 412.68	6,336 ~ 6,603
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	32.30 ~ 35.30	517 ~ 565
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	28.44 ~ 31.18	455 ~ 499
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	47.58 ~ 54.20	761 ~ 867
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	51.67 ~ 55.47	827 ~ 887
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	44.13 ~ 47.40	706 ~ 758
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	38.27 ~ 41.47	612 ~ 663

注:1元=16円

2017年6月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		133.25 ~ 142.50	2,132 ~ 2,280
2	玉繭(double cocoon)		111.40 ~ 121.35	1,782 ~ 1,942
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	120.88 ~ 134.50	1,934 ~ 2,152
4	ビス(bisu)		103.13 ~ 113.63	1,650 ~ 1,818
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	407.78 ~ 414.95	6,524 ~ 6,639
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	409.28 ~ 415.63	6,548 ~ 6,650
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	393.50 ~ 396.75	6,296 ~ 6,348
8	玉糸(doupion silk)	110d	405.75 ~ 420.75	6,492 ~ 6,732
9	土糸(native silk)	110d	395.75 ~ 405.80	6,332 ~ 6,493
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	33.88 ~ 36.50	542 ~ 584
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	28.84 ~ 32.50	461 ~ 520
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	49.50 ~ 55.00	792 ~ 880
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	53.42 ~ 57.34	855 ~ 917
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	46.17 ~ 48.83	739 ~ 781
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	40.17 ~ 42.84	643 ~ 685

注:1元=16円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興市)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2017年7月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		128.50 ~ 142.48	2,185 ~ 2,422
2	玉繭(double cocoon)		108.63 ~ 119.38	1,847 ~ 2,029
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	120.50 ~ 141.75	2,049 ~ 2,410
4	ビス(bisu)		102.25 ~ 114.00	1,738 ~ 1,938
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	411.73 ~ 421.33	6,999 ~ 7,163
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	412.15 ~ 419.10	7,007 ~ 7,125
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	400.25 ~ 403.75	6,804 ~ 6,864
8	玉糸(doupion silk)	110d	405.75 ~ 421.25	6,898 ~ 7,161
9	土糸(native silk)	110d	395.50 ~ 406.00	6,724 ~ 6,902
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	33.25 ~ 35.75	565 ~ 608
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	29.00 ~ 32.67	493 ~ 555
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	50.00 ~ 55.00	850 ~ 935
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	54.17 ~ 57.83	921 ~ 983
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	46.17 ~ 48.84	785 ~ 830
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	40.08 ~ 42.75	681 ~ 727

注:1元=17円

2017年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		131.40 ~ 149.94	2,102 ~ 2,399
2	玉繭(double cocoon)		116.56 ~ 125.98	1,865 ~ 2,016
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	126.00 ~ 147.60	2,016 ~ 2,362
4	ビス(bisu)		107.60 ~ 120.80	1,722 ~ 1,933
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	426.82 ~ 431.96	6,829 ~ 6,911
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	427.46 ~ 434.80	6,839 ~ 6,957
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	415.40 ~ 419.60	6,646 ~ 6,714
8	玉糸(doupion silk)	110d	430.00 ~ 447.40	6,880 ~ 7,158
9	土糸(native silk)	110d	421.40 ~ 446.20	6,742 ~ 7,139
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	35.20 ~ 38.20	563 ~ 611
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	29.00 ~ 33.40	464 ~ 534
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	35.74 ~ 38.84	572 ~ 621
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	55.87 ~ 59.60	894 ~ 954
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	47.40 ~ 50.07	758 ~ 801
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	40.74 ~ 43.40	652 ~ 694

注:1元=16円

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0
2015年	112,007.8	40,387.9	2,239.4	69,380.5	108.9	111.9	97.3	107.7

資料： 中国統計年鑑 (2016)

Source: China Statistical Yearbook 2015

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年指数 Indices(preceding year=100)							
					名目賃金Average Wage				実質賃金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5
2015年	62,029	65,296	46,607	60,906	110.1	114.0	109.0	107.8	108.5	112.3	107.4	106.2

資料：中国統計年鑑2016

Source:China Statistical Yearbook 2016

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687	25,820	28,365	31,947
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946	60,138	61,677	59,404
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650	46,431	51,369	55,324
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202	67,085	73,339	78,886
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483	42,072	45,804	48,886
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391	57,993	63,416	68,822
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510	90,915	100,845	112,042
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340	50,308	55,838	60,328
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267	34,044	37,264	40,806
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743	99,653	108,273	114,777
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764	51,048	55,568	60,244
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162	62,538	67,131	72,489
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254	76,602	82,259	89,410
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343	36,123	39,198	43,528
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135	38,429	41,882	44,802
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734	51,950	56,580	66,592
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564	57,979	63,267	71,624
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558	59,336	64,375	72,764
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074	49,259	53,110	62,323
合 計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769	51,483	56,360	62,029

(出所)中国統計年鑑2016

Source: China Statistical Yearbook 2016

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450	835,758	976,011	1,051,156
合 計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997	926,694	1,070,840	1,178,551
年別円yen／人民元yuanレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00	18.00	19.00	19.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2015年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金 (単位:元)(yuan)	円換算 (円) (yen)	全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	111,390	2,116,410	179.58
天	津	Tianjin	80,090	1,521,710	129.12
河	北	Hebei	50,921	967,499	82.09
山	西	Shanxi	51,803	984,257	83.51
内	蒙	Inner Mongolia	57,135	1,085,565	92.11
遼	寧	Liaoning	52,332	994,308	84.37
吉	林	Jilin	51,558	979,602	83.12
黒	龍	Heilongjiang	48,881	928,739	78.80
上	海	Shanghai	109,174	2,074,306	176.00
江	蘇	Jiangsu	66,196	1,257,724	106.72
浙	江	Zhejiang	66,668	1,266,692	107.48
安	徽	Anhui	55,139	1,047,641	88.89
福	建	Fujian	57,628	1,094,932	92.90
江	西	Jiangxi	50,932	967,708	0.03
山	東	Shandong	57,270	1,088,130	92.33
河	南	Henan	45,403	862,657	73.20
湖	北	Hubei	54,367	1,032,973	87.65
湖	南	Hunan	52,357	994,783	84.41
広	東	Guangdong	65,788	1,249,972	106.06
広	西	Guangxi	52,982	1,006,658	85.41
海	南	Hainan	57,600	1,094,400	92.86
重	慶	Chongqing	60,543	1,150,317	97.60
四	川	Sichuan	58,915	1,119,385	94.98
貴	州	Guizhou	59,701	1,134,319	96.25
雲	南	Yunnan	52,564	998,716	84.74
西	蔵	Tibet	97,849	1,859,131	157.75
陝	西	Shaanxi	54,994	1,044,886	88.66
甘	肅	Gansu	52,942	1,005,898	85.35
青	海	Qinghai	61,090	1,160,710	98.49
寧	夏	Ningxia	60,380	1,147,220	97.34
新	疆	Xinjiang	60,117	1,142,223	96.92
全	国	Average	62,029	1,178,551	100.00

(出所) 中国統計年鑑2016 Source: China Statistical Yearbook 2016

(注) 1元=19円 Note: 1yuan=19yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 [Estimate]	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 [Estimate]	435,500 (101%)	7,258

資料:ブラタク製糸株式会社

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

[illegible]

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2017 年 10 月号 NO.55 平成 29 年 10 月 1 日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず